

保健管理センター年報

第 13 号

1990. 3

岐阜大学保健管理センター

目 次

ま え が き	岐阜大学保健管理センター所長	1
I 健康管理業務		3
1. 学生の健康管理		3
1) 昭和63年度学生の保健管理業務計画		3
2) 昭和63年度学生定期健康診断実施計画		4
3) 昭和63年度学生定期健康診断実施結果		6
4) 昭和63年度外国人留学生定期健康診断受検状況		8
5) 昭和63年度卒業予定者（修了予定者）及び体育系サークル部員健康診断実施計画		9
6) 昭和63年度卒業予定者（修了予定者）及び体育系サークル部員健康診断実施結果		10
7) 健康管理カード、UPIによる新入生健康調査・個別面接		12
8) 昭和63年度入学生健康調査・個別面接実施結果		14
9) 入学志願者の健康診断		15
2. 職員の健康管理		18
1) 昭和63年度職員健康診断業務計画		18
2) 昭和63年度職員一般定期健康診断実施計画		19
3) 昭和63年度職員肝機能検査及び胃の集団検診実施計画		20
4) 昭和63年度職員一般定期健康診断実施結果		21
5) 昭和63年度職員特別定期健康診断実施計画		22
6) 昭和63年度職員特別定期健康診断実施結果		32
3. 昭和63年度保健管理施設利用状況		34
II 「健康のしおり」の発刊について		40
コレステロールと中性脂肪		42
狭心症と心筋梗塞		46

Ⅲ 研究・調査報告	48
1. 昭和63年度入学生の健康管理カードによる健康調査の集計結果	48
2. 昭和63年度教育・工・農学部卒業生の保健管理センター利用状況調べ	54
3. 昭和62・63年度工業短期大学部卒業生の保健管理センター利用状況調べ	54
4. 昭和63年度休学・退学・除籍者調べ	55
5. 肺結核と自然気胸 —保健指導を中心に— 中尾けさじ・白木尚・村瀬寛・平野高広・林垣可代子・丹羽美穂子・山中栄子・栗本良子	56
6. 留年学生について	60

IV 保健管理センター規則等

1) 岐阜大学保健管理委員会規則	64
2) 岐阜大学保健管理センター規則	65
3) 保健管理機構略図	67
4) 学校医及び学生相談室員の相談日割	68
5) 関係職員	69
6) 建物平面図	72
7) 主要設備備品	73

(参 考)

昭和63年度学生教育研究災害傷害保険加入状況	76
昭和63年度学生健康保険互助会加入状況	76
学生教育研究災害傷害保険適用一覧	77
保健管理センター位置図	79

ま え が き

岐阜大学保健管理センター所長 平 川 千 里

保健管理センター年報 第13号(1990年3月)をお届け致します。この年報は、昭和63年度の本学における保健管理活動の状況を報告し、かつ健康の礎として、コレステロールと中性脂肪、あるいは狭心症と心筋梗塞等についての読み物を提供するものであります。

ここで、様々な表となって発表されている数字の意味合いを3つの点について考えてみたいと思います。

まず、蛋白量について、ちょっと考えてみましょう。昭和63年度定期健康診断(学生)実施結果(7頁)を蛋白尿に関して考えてみます。蛋白尿の受検者数は3,729名で、要再検者数は109名であります。つまり蛋白尿について再検査を必要とする者の発生率は

$$(109 \div 3,729) \times 100 = 3 (\%)$$

であります。そして、要観察ないし要治療者数は19名でありますので、蛋白尿についての受験者数に占める発現率は、

$$(19 \div 3,729) \times 100 = 0.5 (\%)$$

であります。蛋白尿は初回検査で約3%に検出され、これを再び検査すると、要観察ないし要治療者は0.5%の頻度で発生していることになります。これは、今までの定期健康診断(学生)実施結果における発生頻度とほとんど変わらないものであると言えます。

次に、昭和63年度保健管理センター利用状況(学生・職員)の一部を見てみますと(34頁)、利用者総数は合計7,582件であり、その内、傷病外利用が1,771件ありますので、傷病のための利用は

$$7,582 - 1,771 = 5,811$$

となります。その内、内科的処置を行った件数は3,640件、外科的処置は892

件、精神神経科的処置は398件、整形外科的処置は373件に行われております。傷病のための利用件数5,811件に対して、内科的、外科的、精神神経科および整形外科的処置の頻度を考えてみますと、内科的処置は

$$(3,640 \div 5,811) \times 100 = 63 (\%)$$

を占めます。外科的処置は

$$(892 \div 5,811) \times 100 = 15 (\%)$$

を占めます。同様に、精神神経科的処置は9%を、整形外科的処置は6%を占めることとなります。このデータは、保健管理センターの利用状況については内科的処置を受ける者が圧倒的に多いことを示しますが、精神神経科的処置が9%と利用率が少ないのは入学時からの精神神経科的フォローアップとケアの密度の濃さを反映している数字と思われる。

本学保健管理センターにおいては、田中實教授の賢明かつ献身的努力により、入学時にほぼ全員(96~97%)について調査・面接を行っています。昭和63年度入学生の健康調査・個別面接実施結果(14頁)を見ますと、教育学部、医学部、工学部、農学部については調査・面接を受けた学生数は1,104名、要再面接となった学生は116名、要再面接率は

$$(116 \div 1,104) \times 100 = 10.5 (\%)$$

再面接を受けた学生数は83名であります。

工業短期大学部入学生の健康調査・個別面接実施結果(14頁)を見ますと、調査面接を受けた学生数197名、要再面接となった学生数15名、要再面接率は

$$(15 \div 197) \times 100 = 7.6 (\%)$$

再面接を受けた学生数は10名であります。

この年報に掲載されている様々の実施結果の意味するところを3つの項目について考えてみましたが、本学における保健管理活動の幾つかの断面を垣間見るものとなりました。関係者のご努力に対して謝意を表します。

I 健康管理業務

1. 学生の健康管理

1) 昭和63年度学生の保健管理業務計画

区分	対象者		実施期間	検査項目等	備考
	新入生	全員			
健康調査及び個別面接	粗面接	要精密面接者	入学直後	健康管理カード及びUPI(5A)による健康調査及び粗面接	
	精密面接	要精密面接者	4月下旬～6月下旬	精密面接、内科診察、心電図、血圧測定、貧血検査、尿検査	
定期健康診断	学大短重復障教農全	部学大専有業員(5,768人)	4月中旬～	内科診察	
			5月下旬	X線間接撮影 身体計測(身長・体重)、視力測定 尿検査(蛋白、糖)	
定期精密健康診断	要再検・精検者	要再検・精検者	4月下旬～	X線直接撮影、赤沈、血糖検査、貧血検査、心電図、尿検査、血圧測定、内科診察等	
			6月下旬		
臨時健康診断	卒業予定者	卒業予定者(1,284人)	10月上旬～中旬	尿検査(蛋白、糖)、血圧測定	
	体育系サークル部員	体育系サークル部員(1,170人)	10月中旬	内科診察、尿検査(蛋白、糖)、血圧測定	
精密健康診断	要再検・精検者	要再検・精検者	10月中旬～下旬	X線直接撮影、赤沈、血糖検査、貧血検査、心電図、尿検査、血圧測定、内科診察等	
			随時	X線直接撮影、赤沈、血糖検査、貧血検査、心電図、尿検査、血圧測定、内科診察等	
特別健康診断	放射線取扱者	放射線取扱者	随時	血液の検査、皮膚の検査	
	特定有害者	特定有害者	随時	血液の検査、皮膚の検査	
品健診	品健診	品健診	5月・11月	自覚症状等の検査、口腔及び皮膚の検査、血液の検査、尿の検査、肺臓の検査、肺活量の検査等	

2) 昭和63年度学生定期健康診断実施計画

年月日	曜日	対 象	検査区分	対象人員	実施場所	実施時間
63.4.14	木	教育学部学生(4年)	定期健診	350	保健管理センター	13:00~15:30
4.15	金	〃	再検査	該当者	〃	9:00~11:00
4.19	火	工業短期大学部学生(3年・2年の半数)	定期健診	300	〃	17:30~19:30
4.20	水	教養部学生(工学部2年 516人)	〃	400	〃	13:00~15:30
4.21	木	〃	再検査	該当者	〃	9:00~11:00
〃	〃	医学部学生全員	定期健診	350	医学部保健管理センター	12:00~14:00
4.22	金	〃	再検査	該当者	〃	9:00~16:00
4.28	木	〃 尿検査は本人が保健管理センターへ来所できる日とする			〃	〃
4.22	金	工学部学生(4年)	定期健診	400	〃	13:00~15:30
4.25	月	〃	再検査	該当者	〃	9:00~11:00
4.26	火	〃(3年・大学院生・その他)	定期健診	400	〃	13:00~15:30
4.27	水	〃	再検査	該当者	〃	9:00~11:00
〃	〃	教養部学生(教育・医学部2年 457人)	定期健診	400	〃	13:00~15:30
〃	〃	工業短期大学部学生(1年・2年の半数)	〃	300	〃	17:30~19:30
4.28	木	教養部学生	再検査	該当者	〃	9:00~11:00
5.10	火	農学部学生(4年)	定期健診	230	〃	13:00~15:30
5.11	水	〃	再検査	該当者	〃	9:00~11:00
〃	〃	教養部学生(農学部1・2年 506人)	定期健診	400	〃	13:00~15:30
〃	〃	工業短期大学部学生	再検査	該当者	〃	17:00~19:00
5.12	木	教養部学生	〃	〃	〃	9:00~11:00
5.18	水	〃(工学部1年 460人)	定期健診	400	〃	13:00~15:30
5.19	木	〃	再検査	該当者	〃	9:00~11:00
5.20	金	農学部学生(3年・大学院生・その他)	定期健診	300	〃	13:00~15:30
5.23	月	〃	再検査	該当者	〃	9:00~11:00
5.24	火	教育学部学生(3年・重複・専攻・その他)	定期健診	400	〃	13:00~15:30
5.25	水	〃	再検査	該当者	〃	9:00~11:00
〃	〃	教養部学生(教育・医学部1年 425人)	定期健診	400	〃	13:00~15:30
5.26	木	〃	再検査	該当者	〃	9:00~11:00
5.31	火	教職員(柳戸地区)	定期健診	400	〃	13:00~15:30
6.3	金	〃	〃	400	〃	13:00~15:30
6.6	月	〃	再検査	該当者	〃	9:00~16:00
6.7	火	〃	〃	〃	〃	9:00~16:00
〃	〃	〃(司地区)	定期健診	350	医学部	13:00~15:30
6.8	水	〃	〃	350	〃	13:00~15:30
〃	〃	〃	再検査	該当者	医学部附属病院	学校医と相談・
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
6.27	月	学生・教職員(X線直接撮影)	精密検査	該当者	〃	9:00~14:00

担 当 医 師 数	セ ン タ ー 医 師	学外医師	医 学 部 医 師	看護婦数	担 当 看護婦名	備 考
4	1	1	2	5		定期健康診断
3	2		1	5		・内科診察
4	2		2	5		・胸部X線間接撮影
4	1		3	2	林垣・栗本	・尿検査 学生全員
						教職員35才以上
						・血圧測定 教職員のみ35才以上
4	1		3	5		・身体計測
						・視力測定
4	1	1	2	5		再検査
4	2		2	5		・血圧測定
3	2		1	5		・尿検査
2	1	1		5		精密検査
4	2		2	5		・内科診察
						・心電図
						・血液検査
					丹羽・山中	(血糖検査も含む)
4	2		2	5		・胸部X線直接撮影
4	1	1	2	5		
4	1		3	5		
4	1		3	4	(病院)	
4	2		2	4	(病院)	
						・指示を受けて実施
						〃

3) 昭和63年度学生定期健康診断実施結果

区分 部局	在 学 生 数	休学者数		対 象 者 数	受 検 者 数	受 検 率 %	未 受 検 者 数	胸部エックス線撮影			
		疾 病 に よ る も の	疾 病 以 外 に よ る も の					間 接 受 検 者 数	要 直 接 撮 影 者 数	赤 沈	要 観 察 ・ 治 療 者 数
教育学部	681	0	8	673	547	81.3	126	547	2		(1)
医学部	358	1	0	357	167	46.8	190	167	0		
工学部	834	0	6	828	557	67.3	271	556	2		
農学部	448	0	5	443	314	70.9	129	312	0		
教養部	2,364	0	21	2,343	1,376	58.7	967	1,376	3		(1)
小計	4,685	1	40	4,644	2,961	63.8	1,683	2,958	7		(2)
医学研究科	67	0	1	66	16	24.2	50	16	0		
工学研究科	188	0	0	188	170	90.4	18	169	1		1
農学研究科	141	0	3	138	129	93.5	9	130	0		0
工業短期大学部	664	0	28	636	461	72.5	175	461	0		0
小計	1,060	0	32	1,028	776	75.5	252	776	1		1
合計	5,745	1	72	5,672	3,737	65.9	1,935	3,734	8		1 (2)

教育専攻科	2	0	0	2	2	100.0	0	2	0		
重複障害教育 教員養成課程	16	0	0	16	16	100.0	0	16	0		
農業別科	5	0	0	5	0	0	5	0			
教育学部 研究生	16	0	0	16	6	37.5	10	6	0		
工学部研究生	12	0	0	12	4	33.3	8	4	0		
農学部研究生	2	0	0	2	2	100.0	0	2	0		
合計	53	0	0	53	30	56.6	23	30	0		

受 診 者 数	内 科 診 察								尿 検 査							そ の 他
	聴 打 診 に よ る 有 所 見 者 数	間 接 撮 影 に よ る 有 所 見 者 数	再 検 後 の 要 治 療 要 観 察 者 数	再 検 未 受 診 者 数	検 査 件 数				受 検 者 数	蛋 白			糖			
					内 科 診 察	心 電 図	血 圧 測 定	血 液 検 査		要 再 検 者 数	要 要 観 治 療 者 数	再 検 未 受 検 者 数	要 再 検 者 数	要 要 観 治 療 者 数	再 検 未 受 検 者 数	
547	8	1	3	0	9	7	8		547	18	1	0	0			
167	0	0							167	7		6	1			1
557	9	0	2	0	9	6	7		556	13	4	1	4	1	0	2
314	1	1	1	0	2	1	1		314	7	2	0	1			0
1,371	15	1	6	0	16	6	13	7	1,376	41	9	2	3	0	2	1
2,956	33	3	12	0	36	20	29	7	2,960	86	16	9	9	1	3	3
16	0	0		0					16	0			0			0
170	1	0		0	1				168	5	1	0	1			0
130		1		0	1				130	4	2	0	2	1	0	1
461	7	0	2	4	2	1	1		455	14	0	2	0			0
777	8	1	2	4	4	1	1		769	23	3	2	3	1	0	1
3,733	41	4	14	4	40	21	30	7	3,729	109	19	11	12	2	3	4

2	0	0							2	0			0			
16	0	0							16	0			0			
0									0							
6	0	0							6	0			0			
4	0	0							4	0			0			
2	0	0							2	0			0			
30	0	0							30	0			0			

4) 昭和63年度外国人留学生定期健康診断受検状況

学 部	対象者数	在 籍 身 分 数	受 検 者 数	未受検者数	受 検 率
医 学 部	17	学 部 生 4	2	2	50.0 %
		研 究 科 生 11	11	0	100.0 %
		研 究 生 2	2	0	100.0 %
		計 17	15	2	88.2 %
教 育 学 部	12	学 部 生 0	—	—	— %
		研 究 科 生 0	—	—	— %
		研 究 生 10	4	6	40.0 %
		聴 講 生 2	1	1	50.0 %
		計 12	5	7	41.7 %
工 学 部	30	学 部 生 14	11	3	78.6 %
		研 究 科 生 12	12	0	100.0 %
		研 究 生 4	0	4	0.0 %
		計 30	23	7	76.7 %
農 学 部	7	学 部 生 1	0	1	0.0 %
		研 究 科 生 4	4	0	100.0 %
		研 究 生 2	1	1	50.0 %
		計 7	5	2	71.4 %
合 計	66	学 部 生 19	13	6	68.4 %
		研 究 科 生 27	27	0	100.0 %
		研 究 生 18	7	11	38.9 %
		聴 講 生 2	1	1	50.0 %
		合 計 66	48	18	72.7 %

注：対象者数は、昭和63年4月1日現在の外国人留学生数である。

5) 昭和63年度卒業予定者(修了予定者)

及び体育系サークル運動部員健康診断実施計画

1. 日 程

月日	曜日	健 診 対 象	実施時間	受検予 定者数	実施場所
9.16	金	医学部卒業予定者・修了予定者 " 運動部員	12:00 14:00	300	於 司 地 区
9.17 ↓ 9.24	土 ↓ 土	" 再検査	8:30 ↓ 16:30	該当者	於 保健管理 センター
10.17	月	工業短期大学部卒業予定者	17:30 19:00	150	"
10.19	水	農学部卒業予定者・修了予定者・その他 教育・ 工・農学部・教養部・運動部員(1.2.3年)	13:00 15:00	1,000	"
10.20	木	運動部員 再検査	9:00 11:00	該当者	"
10.21	金	農学部 再検査	9:00 11:00	該当者	"
10.25	火	工学部 卒業予定者 修了予定者	13:00 15:00	400	"
10.26	水	工学部 再検査	9:00 11:00	該当者	"
"	"	工業短期大学部 再検査	17:00 19:00	"	"
10.27	木	教育学部 卒業予定者 修了予定者・その他	13:00 15:00	360	"
10.28	金	教育学部 再検査	9:00 11:00	該当者	"

2. 検査項目及び内科診察

- (1) 血圧測定 全員検査
- (2) 尿検査(蛋白・糖) 全員検査
- (3) 内科診察 体育系サークル部員のみ

6). 昭和63年度卒業予定者（修了予定者）及び体育系サークル部員健康診断実施結果

区 分	在学者数 人	休学者数 人	対象者数 人	受検者数 人	受検率 %	内 科 診 察				
						再診察者数	再診結果			未再診 受診者数
							正 常	要 観 察	要 治 療	
卒業 予定 者	教育学部	351	2	349	247	70.8				
	医学部	89	0	89	56	62.9				
	工学部	447	6	441	183	41.5				
	農学部	206	2	204	154	75.5				
	小 計	1,093	10	1,083	640	59.1				
	教育専攻科	2	0	2	1	50.0				
	重複障害教育 教員養成課程	16	0	16	0	0				
	農業別科	5	0	5	0	0				
	工業短期大学部	255	10	245	59	24.1				
	小 計	278	10	268	60	22.4				
合 計	1,371	20	1,351	700	51.8					
体育系サークル 学生	柳戸地区 1年			285	57	20.0	0			
	“ 2年			261	34	13.0	0			
	“ 3年			220	27	12.3	0			
	司 地 区			226	35	15.5	0			
	小 計			992	153	15.4	0			
修了 予定 者	医学研究科	11	1	10	0	0				
	工学研究科	91	0	91	52	57.1				
	農学研究科	80	1	79	73	92.4				
	小 計	182	2	180	125	69.4				
合 計	1,553	22	2,523	978	38.8	0				

要 再 検 者 数	血 庄				尿 蛋 白				尿 糖				
	再 検 結 果			未再 受 検 者 数	再 検 結 果			未再 受 検 者 数	再 検 結 果			未再 受 検 者 数	
	正 常	要 観 察	要 治 療		正 常	要 観 察	要 治 療		正 常	要 観 察	要 治 療		
5	5				6	6				2	1	1	
4	3	1			2	1	1						
13	12	1			6	3	2		1	2	1	1	
14	13			1	2	1	1						
36	33	2		1	16	11	4		1	4	2	2	
0					0					0			
0					0					0			
0					0					0			
7	3	2		2	4	3			1	0			
7	3	2		2	4	3			1				
43	36	4		3	20	14	4		2	4	2	2	
3	1			2	1	1				1	1		
4	4				2	2				0			
4	4									0			
3	2	1								0			
14	11	1		2	3	3				1	1		
0					0					0			
3	3				1	1				0			
8	8				3	3				0			
11	11				4	4				0			
68	58	5		5	27	21	4		2	5	3	2	

7) 健康管理カード・UPIによる新入生健康調査・個別面接

新入生の健康調査・保健管理、特に精神健康管理について：昭和42年度から新入生全員を対象とした個別面接を、定期健康診断の一環として、教育学部・教養部の心理学等担当教官、医学部・附属病院の精神医学等担当教官・医師の協力を得て実施してきたが、昭和53年度から実施方法・時期・要再面接の判定基準などを変更し、新入生全員の健康状態の把握、精神不安定・不健康な者の早期発見、それらの早期の対処、更に積極的に不健康の予防、人格的発達への寄与などを目的に、健康調査・個別面接として継続実施している。

要領：入学式の当日学生に配布し、記入させた健康管理カード（資料1）・UPI（資料2）を保健管理センターへ本人に持参させ、提出時にそれらを資料として、1人4～5分程度の面接を行い、各人の心身の健康状態を調査し、集団生活・修学上の諸問題について適切な指導・助言を与え、更に保健管理センターの組織・機能について説明し同センターの利用を勧める。

面接・調査の結果、更に詳しく診察・検査・面接を要すると判定された者については、早い時期（定期健康診断実施前から実施中）に事後措置・再面接を行う。

要再面接の判定基準：健康管理カード（資料1）の自覚症状・既往歴・その他の記載事項、UPI（資料2）の30項目以上肯定したもの、25・34・49・55番の項目を肯定したもの、備考欄に相談したいとか、気になることの記載の有るもの及び面接時の印象などの総合判定による。

面接・調査は、保健管理センターの保健管理医（精神科医・内科医）、学校医（保健管理センター非常勤講師）、保健婦・看護婦が担当する。

資料1

整理番号	63	教・工 医・農	—
------	----	------------	---

健康管理カード	学部		氏名		性別	男・女
	学科		生年月日	昭和	運動部名	

健康調査

次の項目で該当するものに○印を、該当しないものに×印をつけてください。

項目	回答欄	項目	回答欄
1. よく風邪をひく		8. めまい・立ちくらみがすることがある	
2. ひどい寝汗をかくことがある		9. 息苦しくなって困ることがある	
3. 口が渇くことがある		10. 疲れやすく元気がない	
4. 顔や下肢がむくむことがある		11. 手足のつることがある	
5. おなかをよくこわす		12. めだって体重が増減したことがある	
6. よく便秘する		13. 関節・腰などに痛みを感じることもある	
7. 頭が重かったり痛んだりすることがある		14. 薬剤使用後に熱や発疹が出たり、気分が悪くなったことがある（例：ペニシリン・サルファ剤）	
身内に脳卒中で亡くなった者がいる		身内に結核の者がいる	
身内に結核で亡くなった者がいる		身内にかんの者がいる	
身内にかんで亡くなった者がいる		身内に糖尿病の者がいる	
身内に高血圧の者がいる		身内に肝臓病の者がいる	
血液は何型ですか	A, B, O, AB(RH +, -)	中・高校時代疾病により長期欠席(3か月以上)したことがある	
ツベルクリン反応	陽性・疑陽性・陰性(年 月 陽転)	色覚異常の有無及び程度	無・有()

次のような病気にかかったことがあれば、何歳の時か記入してください。

1. 肺結核	歳	2. その他の結核	歳	3. 心疾患	歳	4. 腎疾患	歳	5. 肝疾患	歳
6. 気管支喘息	歳	7. 貧血	歳	8. リウマチ	歳	9. 小児まひ	歳	10. てんかん	歳
11. ノイローゼ	歳	12. 精神神経疾患	歳	13. 交通事故による疾患	歳	14. その他()			歳

学籍番号 _____ 岐阜大学 _____ 昭和 _____ 年 _____ 月 _____

男子 氏名	昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日 才	学部	学科	出身高校 出身大学	卒業、卒業、中途
現住所 (〒) (TEL) _____ (TEL) _____	(方)	自宅	下宿	家族 兄弟 (同居の) 祖父 義父母又は義父母	才 (続・否) 才 (続・否) 才 才 才 才 才 才 才 才 才 才 才 才
父兄住所 (〒) (TEL) _____ (TEL) _____	(氏名)	就府	その他		

下記の質問は多くの人々が、しばしば経験することを列挙したもので、これは、あなたの健康の理解と増進のための調査です。番号順によく読んで、あなたが最近1年位の間に、ときどき感じたり、経験したりしたことのある項目の番号に、軽い気持ちで○印を、ない項目の番号には×印を書いて下さい。これは、あなた個人のことで、他人にももらしたり、上の目的以外に使うことは決してありませんから、安心してありのままに書いて下さい。書き終ったら、もう一度よく読んで、書き落しがないか、また、氏名など記入したか、確かめて下さい。
(所要時間は10分間程度)

◎ 提出は4月8日、10日、11日、12日の間に、保健管理センターへ健康管理カードと共に本人が持参し提出すること。

Ⓢ U. P. I. (A5)

- | | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------|
| 1. 食欲がない | 16. 不眠がちである | 31. 赤面して困る | 46. 体がだるい |
| 2. 吐気、胸やけ、腹痛がある | 17. 頭痛がする | 32. 吃ったり、声かふるえる | 47. 気になると冷汗が出やすい |
| 3. わけもなく便秘や下痢をしやすい | 18. 頸すじや肩がこる | 33. 体がほてったり、冷えたりする | 48. めまいや立ちくらみがする |
| 4. 動悸や脈が気になる | 19. 胸が痛んだり、しめつけられる | 34. 排尿や性器のことが気になる | 49. 気を失ったり、ひきつけたりする |
| 5. いつも体の調子がよい | 20. いつも活動的である | 35. 気分が明るい | 50. よく他人に好かれる |
| 6. 不平や不満が多い | 21. 気が小さすぎる | 36. なんとなく不安である | 51. こだわりすぎる |
| 7. 親が期待すぎる | 22. 気疲れする | 37. 独りでいるとおちつかない | 52. くり返したしかめないと苦しい |
| 8. 自分の過去や家庭は不幸である | 23. いらいらしやすい | 38. ものごとに自信をもてない | 53. 汚れが気になって困る |
| 9. 将来のことを心配すぎる | 24. おこりっぽい | 39. 何事もためらいがちである | 54. つまらぬ考えがとれない |
| 10. 人に会いたくない | 25. 死にたくなる | 40. 他人にわかるくらわれやすい | 55. 自分のへんな匂いが気になる |
| 11. 自分が自分でない感じがする | 26. 何事も生き生きと感じられない | 41. 他人が信じられない | 56. 他人に陰口をいわれる |
| 12. やる気が出てこない | 27. 記憶力が低下している | 42. 気をまわしすぎる | 57. 周囲の人が気になって困る |
| 13. 悲観的になる | 28. 根気が続かない | 43. つきあいが嫌いだである | 58. 他人の視線が気になる |
| 14. 考えがまとまらない | 29. 決断力がない | 44. ひげ目を感じる | 59. 他人に相手にされない |
| 15. 気分に波がありすぎる | 30. 人に頼りすぎる | 45. とりこし苦労をする | 60. 気持が傷つけられやすい |

その他、自分の気になることがあったら、記入して下さい。

上記について相談をしたいと思いませんか。 1. はい (すぐに・そのうちに) 2. いいえ 3. その他 ()

※ 保健管理センター(学生相談室)では、あなたの方の心身の健康増進のため相談に応じていますので、利用して下さい。

8) 昭和63年度入学生健康調査・個別面接実施結果

1. 学部学生

	教育学部	医学部	工学部	農学部	合計
入 学 生 数	341	84	460	250	1,135
調査・面接を受けた学生数	340	78	441	245	1,104
調査・面接受検率	99.7%	92.9%	95.9%	98.0%	97.3%
要再接となった学生数	33	5	42	36	116
要 再 面 接 率	9.7%	6.4%	9.5%	14.7%	10.5%
再接を受けた学生数	20	3	33	27	83
再 面 接 受 検 率	60.6%	6.0%	78.6%	75.0%	71.6%

2. 工業短期大学部学生

入 学 生 数	206
調査・面接を受けた学生数	197
調査・面接受検率	95.6%
要再接となった学生数	15
要 再 面 接 率	7.6%
再接を受けた学生数	10
再 面 接 受 検 率	66.7%

9) 入学志願者の健康診断

a) 平成元年度岐阜大学入学者選抜時の健康診断実施要領

「大学入学者選抜実施要領」(昭和63年5月25日付け文高大第187号高等教育局長通知)に基づき本学入学者選抜時の健康診断は、下記要領により実施するものとする。

記

健康診断委員会は、次の区分により入学の適否を判定する。

1. 健康状況の把握

入学志願者の健康状況の把握については、調査書の「健康の状況」の記載によることを原則とする。ただし昭和61年度以前の高等学校卒業生及び大学入学資格検定の合格者等調査書を提出することができない者については、医師が証明する本学所定の健康診断書によるものとする。

2. 調査書(健康の状況)及び健康診断書の審査

学長から委嘱された健康診断医が予め審査し、精密検査の要・不要を判定する。

3. 精密検査

健康診断医が必要と判定した者に対しては、次の項目のうち必要な検査を行うものとする。

- (1) エックス線直接撮影
- (2) 血 沈
- (3) 尿
- (4) 内 科
- (5) 眼 科
- (6) 耳鼻咽喉科
- (7) 整形外科
- (8) その他必要事項

4. 入学適否の判定

健康診断委員会は、次の区分により適否を判定する。

- A. 入学を適当と認められる者
- B. 教授会で協議を要する者
- C. 入学を不適当と認められる者

b) 平成元年度岐阜大学入学者選抜時の健康診断判定基準

入学者選抜時の健康診断は、昭和63年5月25日付け文高大第208号通知に準拠して実施し、本学の特質を考慮して入学の適否を判定する基準を次のとおり定める。

入学を許可しない方針の者

1. 視力について

矯正視力が両眼ともに0.1以下の者（1眼が失明していても、他眼の矯正視力が0.2以上あれば差し支えない。）

ただし、医学部においてはこのほか次に該当する者

(ア) 矯正視力が1眼0.02以下、他眼0.5以下の者（1眼が失明していても、他眼の矯正視力が0.6以上あれば差し支えない。）

(イ) 片眼の視野が10度以内の者においては、他眼の中心視野が30度以下の者

2. 聴力について

医学部及び農学部獣医学科においては、純音オーディオメータによる聴力検査にて両耳の聴力レベルが70 dB以上の者

〈注〉

(1) 聴力測定は補聴器を装着しない状態で行う。

(2) 純音オーディオメータは、JIS規格（昭和57年8月14日改定）を用いる。

(3) 聴力レベルは、会話音域の平均聴力レベルとし、周波数500, 1000, 2000ヘルツの純音に対する聴力レベル（dB値）をそれぞれa、b、cとした場合、次の算式により算定して数値とする。

$$\frac{a + 2b + c}{4}$$

3. その他疾病若しくは身体の障害等により、修学上困難がある者

c) 平成元年度入学試験健康診断精密検査該当者数・受診者数

検査項目等 学部	X線直接 撮影	赤沈	尿検査	内科診察	眼科診察	耳鼻咽喉 科診察	整形外科 診察	その 他の			計		
								泌尿器 科診察	放射線 診察	その他	延件数	実人員	
教育学部			(1)	1				(1)			(2)	(2)	2
医学部			(1)	(1)			(1)	(2)			(5)	(4)	3
工学部			(5)	(6)			1	(2)			(13)	(8)	7
農学部			(4)	(9)							(13)	(9)	9
計			(10)	(17)			(1)	(5)			(33)	(23)	21

○ 検査項目等欄の上段()書は精密検査該当者数、下段は受診者数を示す。

2. 職員の健康管理

1) 昭和63年度職員健康診断業務計画

区 分	対 象 者	期 間	検 査 項 目 等
一般定期健康診断	職 員 全 員 (1,499名)	4月～5月	1. 内科検診 2. 胸部エックス線間接撮影 3. 身体測定(身長、体重、視力)
	35才以上 (1,009名)	〃	1. 血圧測定 2. 尿中のたんぱく及び糖の検査
	40才以上 (787名)	2月 5月～7月	1. 胃の検査(エックス線間接撮影) 2. 肝臓機能検査
一般定期健康診断 (精密検査)	再検査及び精検者	5月～6月	1. 胸部エックス線直接撮影、赤沈、内科検診、心電図 2. 尿検査、血圧測定、その他
特別定期健康診断	タイピスト (8名)	11月～12月	自覚症状等の検査、眼の検査、上肢、頸部、背部の機能検査
	理学療法士 (2名)	〃	自覚症状等の検査、皮膚の検査、上肢、頸部、背部の機能検査
	夜勤者 (205名)	〃	自覚症状等の検査、血圧の検査、尿の検査
	自動車運転手 (7名)	〃	自覚症状等の検査、眼の検査、聴器の検査、平衡機能の検査、胃腸の検査、血圧の測定、上肢、頸部及び腰部の機能検査
	給食等関係者 (25名)	〃 (検便毎月)	自覚症状等の検査、伝染病の検査、寄生虫の検査、皮膚の検査、腰部の機能検査
	病原体取扱者 (648名)	5月 11月	自覚症状等の検査、病原体による疾病に特有な症状の検査、病原体の検査
	チェンソー等 取扱者 (4名)	11月～12月	自覚症状等の検査、筋力の検査、血圧の検査、末しょう循環機能検査、末しょう神経機能検査
	放射線取扱者 (198名)	3ヶ月毎	皮膚の検査、問診、血液の検査(6ヶ月毎)
	特定有害業務 従事者等 (88名)	5月～7月	自覚症状等の検査、口腔及び皮膚の検査、血液の検査、尿の検査、肺臓の検査、肺活量の検査等

2) 昭和63年度職員一般定期健康診断実施計画

対象地区	日時	検査等項目	場所	備考
司地区	6月7日(火) 8日(水) 13:00~15:30	内科診察、胸部X線間接撮影、 血圧測定及び尿検査(血圧、尿 は35歳以上の者)	附属病院	医師各4人 看護婦各4人
工学部、農学部、 工業短期大学部	5月31日(火) 13:00~15:30	〃	保健管理 センター	医師4人 看護婦5人
本部、教育学部、 教養部、附属図書館、 保健管理センター	6月3日(金) 13:00~15:30	〃	〃	医師4人 看護婦5人
柳戸地区	6月6日(月) 7日(火) 9:00~11:00	血圧測定及び尿検査	〃	再検査の必要 な者
司地区	6月17日(金) 9:00~11:00	〃	附属病院	〃
司地区	6月27日(月) 10:00~11:30	赤沈等及び胸部X線直接撮影	〃	精密検査の必要 な者
柳戸地区	6月27日(月) 13:00~14:00	〃	保健管理 センター	〃
農学部附属山地 開発研究施設	別に定める	内科診察、胸部X線間接撮影、 血圧測定及び尿検査(血圧、尿 は35歳以上の者)	高山保健所	
農学部 附属演習林	別に定める	〃	益田保健所	

(備考)

1. 地区別の区分は、次のとおりとする。

(1) 柳戸地区：事務局、学生部、教育・工・農学部(附属農場を含む。)、教養部、附属図書館、工業短期大学部及び保険管理センター

(2) 司地区：医学部、同附属病院及び附属図書館医学部分館

2. かくたん検査については、諸検査の結果、精密検査の必要な者について実施する。

3. 教育学部附属小・中学校については、別に実施する。

3) 昭和63年度職員肝機能検査及び胃の集団検診実施計画

- (1) 検診対象者
 a 満40歳以上の者
 b 上記以外で検査を希望する者
- (2) 検査方法
 3ccの採血をして行う
- (3) 検査項目
 GOT、GPT
- (4) 採血日時等

区 分	日 時	対 象 部 局	実 施 場 所
肝機能検査	7月5日(火) 9:00~11:00	事務局、学生部 農学部(付属農場を含む) 教養部、付属図書館(医学部分を除く) 保健管理センター	保健管理センター
	7月7日(木) 9:00~11:00	教育学部、工学部 工業短期大学部	〃
	5月24日(火) 25日(水) 13:00~16:30	医学部 医学部附属病院 付属図書館医学部分館	医学部附属病院
	7月4日(月) 5日(火) 6日(水)	教育学部附属小・中学校	杉浦内科胃腸科 (岐阜市加納)
胃の集団検診	7月4日(月) 5日(火) 6日(水)	〃	〃
	2月2日(木) 8:30~10:00	事務局、学生部 付属図書館 保健管理センター 工業短期大学部	本部棟玄関
	2月2日(木) 8:30~10:00	工学部 農学部(付属農場を含む)	工学部ピロティ
	2月3日(金) 8:30~10:00	教育学部 教養部	教育・教養 外来者駐車場
	3月8日(水) 9日(木) 10日(金) 8:30~10:00	医学部 医学部附属病院 付属図書館医学部分館	医学部教育棟前

4) 昭和63年度職員一般定期健康診断実施結果

検査項目 部局	胸部X線間接撮影				胸部X線直接撮影				尿				血圧測定				胃				肝				機能検査				
	対象者	受診実人員	受診延人員	受診率	経過観察数	対象者	受診実人員	受診延人員	受診率	経過観察数	対象者	受診実人員	受診延人員	受診率	経過観察数	対象者	受診実人員	受診延人員	受診率	経過観察数	対象者	受診実人員	受診延人員	受診率	経過観察数	検査	観察数		
専務 学務部 学務部 管理課 (保健管理課を含む)	116	63	63	54		1	1	1	100		95 (3)	56 (3)	56 (3)	59		95 (4)	59 (4)	72 (5)	62	10	84	23	23	27	84 (5)	38 (5)	38 (5)	45	3
教育学部	201	126	126	63							151 (34)	91 (34)	101 (35)	60	2	151 (35)	91 (36)	98 (35)	60	2	114	37 (13)	39 (14)	32	109 (13)	36 (13)	36 (13)	33	
医学部	289	193	193	67	1	3	2	2	67		212 (2)	94 (2)	94 (2)	44	3	212 (5)	86 (5)	86 (5)	41	4	160 (1)	40 (1)	40 (1)	25	160 (13)	57 (13)	57 (13)	36	
医学部 附属病院	437	292	292	67		6	5	5	83		204 (1)	91 (1)	91 (1)	45	1	204 (24)	122 (24)	122 (24)	60	8	129 (11)	47 (11)	47 (11)	36	129 (2)	111 (2)	111 (2)	86	
工学部	177	75	75	42							121 (11)	51 (11)	51 (11)	42		121 (9)	53 (9)	53 (9)	44	5	108 (1)	13 (1)	13 (1)	12	104 (2)	20 (2)	20 (2)	19	
農学部	146	86	86	59							123 (7)	57 (7)	61 (8)	46	7	123 (1)	57 (1)	66 (1)	46	5	107 (2)	19 (2)	19 (2)	18	107 (14)	52 (14)	52 (14)	49	3
教養部	79	35	35	44							57 (6)	23 (6)	24 (6)	40	1	57 (6)	22 (6)	24 (6)	39	2	47 (2)	8 (2)	8 (2)	17	47 (2)	8 (2)	8 (2)	17	(1)
附属 図書館	19	15	15	79							16	11	11	69	1	16	13	13	81	2	11	4	4	36	11	3	3	27	1
工業短期	35	22	22	63		1	1	1	100		30	19	19	63	1	30 (2)	20 (2)	27 (2)	67	4	27	5	5	19	27	7	7	26	
計	1,499	907	907	61	2	11	9	9	82		1,009 (64)	493 (64)	508 (66)	49	14	1,009 (86)	523 (86)	561 (87)	52	42	787 (17)	196 (30)	198 (31)	25	778 (51)	332 (51)	332 (52)	43	7 (1)

注 () 内数字は、希望者数で外数を示す。

5) 昭和63年度職員特別定期健康診断実施計画

対象地区	対象者	日時	検査等項目	場所	備考
柳戸地区	特定有害物質取扱者	7月6日(水) 9:00~14:00	自覚症状等の検査、口腔及び皮膚の検査、血液の検査、尿の検査、肺臓の検査肺活量の検査等	保健管理センター	医師 3名 看護婦 5名
	病原体取扱者	7月5日(火) 11月16日(水) 9:00~11:00	自覚症状等の検査、病原体による疾病に特有な症状の検査、病原体の検査	〃	医師 3名 看護婦 5名
	放射線取扱者	4月19日(火) 10月12日(水) 9:00~11:00	皮膚の検査、問診、血液の検査(6カ月)	〃	医師1~3名 看護婦 5名
	タイピスト	11月29日(火) 30日(水) 9:30~11:00	自覚症状等の検査、眼の検査、上肢、頸部、背部の機能検査	〃	〃
	電話交換手	〃	自覚症状等の検査、聴器の検査	〃	〃
	自動車運転手	〃	自覚症状等の検査、眼の検査、聴器の検査、平衡機能の検査、胃腸の検査、血圧の測定、上肢、頸部及び腰部の機能検査	〃	〃
	給食等関係者	〃	自覚症状等の検査、伝染病の検査(毎月)、寄生虫の検査、皮膚の検査、腰部の機能検査	〃	〃
司地区	チェンソー等取扱者	12月9日(金) 9:30~11:00	自覚症状等の検査、筋力の検査、血圧の測定、末しょう循環機能検査、末しょう神経機能検査	医学部 附属病院	各診療科で 受診及び春、 秋毎に6人の 看護婦を 依頼
	特定有害物質取扱者	5月24日(火) 25日(水) 26日(木) 13:00~16:30	自覚症状等の検査、口腔及び皮膚の検査、血液の検査、尿の検査、肺臓の検査、肺活量の検査等	医学部 附属病院	

対象地区	対象者	日時	検査等項目	場所	備考
司地区	病原体 取扱者	5月24日(火) 25日(水) 26日(木) 13:00~16:30 11月29日(火) 30日(水) 13:00~16:30	自覚症状等の検査、病原体による疾病に特有な症状の検査、病原体の検査	医学部 附属病院	各診療科で 受診及び春、 秋毎に6人の 看護婦を 依頼
	電話交換手	12月19日(月) 13:00~14:00	自覚症状等の検査、聴器の検査	〃	
	放射線 取扱者	5月24日(火) 25日(水) 26日(木) 13:00~16:30 6月23日(木) 24日(金) 14:30~16:00 10月6日(木) ~7日(金) 14:00~17:00 12月15日(木) 10日(金) 15:00~17:00 11月29日(火) 30日(水) 13:00~16:30 3月23日(木) 24日(金) 14:00~17:00	皮膚の検査、問診、血液の検査(6ヶ月毎)	〃	
	理学療法士	12月14日(水) 13:30~15:30 14:00~15:00	自覚症状等の検査、皮膚の検査、上肢、頸部、背部の機能検査	〃	
	夜勤者	12月14日(水) ~20日(火) 随時	自覚症状等の検査、血圧の測定、尿の検査	〃	

対象地区	対象者	日時	検査等項目	場所	備考
司地区	自動車 運転手	12月15日(木) 14:00～16:00 12月10日(金) 14:00～15:00 12月19日(月) 13:00～14:00	自覚症状等の検査、眼の 検査、聴器の検査、平衡 機能の検査、胃腸の検査、 血圧の測定、上肢、頸部 及び腰部の機能検査	医学部 附属病院	各診療科で 受診及び春、 秋毎に6人 の看護婦を 依頼
	給食等 関係者	12月14日(水) 13:30～15:30 12月15日(木) 14:00～16:00 12月26日(金) 14:00～15:00	自覚症状等の検査、伝染 病の検査(毎月)、寄生 虫の検査、皮膚の検査 腰部の機能検査	〃	
加納地区	給食等 関係者	12月27日(水) 8:30～10:00	自覚症状等の検査、伝染 病の検査、寄生虫の検査、 皮膚の検査、腰部の機能 検査	杉浦内科 胃腸科	

特別定期健康診断〔特定有害業務（物質（薬品）取扱者）〕

問 診 票

所属部局

学科

氏 名

生年月日 大・昭 年 月 日生

性 別 男・女

満 才

- 現在服用中の薬が有れば記入してください。

例えば 風邪薬、抗生物質血圧降下剤

()

- 既往症が有れば記入してください。（カゼ等の軽いものについては記入しなくてよい。）

病 名

治療期間 年 月 ～ 年 月

- 本年度の一般定期健康診断、成人病自動化健診受験の有無を記入してください。

有 ・ 無

- 添付別紙の○印で囲んだ番号のうち、現在あなたが自覚する症状が有れば○印で囲み、その他の症状がある場合は（ ）内に記入してください。

なお、不明な点がありましたら保健管理センターへ、健康診断当日ならばセンター職員にお尋ねください。

1. 便秘、腹部の疝痛、関節痛、頭痛、不眠、めまい、その他（ ）

四肢の伸筋麻痺及び知覚異常、握力減退、歯肉の帯青灰白又は緑黒色の着色

2. いらいら、不眠、悪夢、食欲不振、倦怠感、盗汗、頭痛、悪心、嘔吐、腹痛、不安、興奮、その他（ ）

3. 頭痛、不眠、乏尿、多尿、その他（ ）

手指の振せん

4. 不眠、頭痛、精神不安定感、手指の振せん、その他（ ）

口腔粘膜俺呼び皮膚の炎症、潰瘍

5. 頭重、頭痛、口唇又は四肢部の知覚異常、関節痛、不眠、嗜眠、抑うつ感、精神不安感、その他（ ）

口腔粘膜及び皮膚の炎症、歩行失調、手指の振せん

6. せき、たん、瞬目減少、膏顔（あぶら顔）、流唾、発汗異常、手指の振せん、書字拙劣、歩行障害、不随意性運動障害、初語異常、その他（ ）

握力減退

7. せき、たん、胸痛、その他（ ）

角膜、鼻粘膜及び皮膚の炎症潰瘍

8. せき、たん、息ぎれ、食欲不振、悪心、嘔吐、反復性の腹痛又は下痢、体重の減少、その他（ ）

歯牙の変色、鼻粘膜の炎症

9. せき、たん、咽頭痛、息ぎれ、動悸、倦怠感、食欲不振、体重の減少、その他（ ）
皮膚の炎症
10. せき、たん、下痢、便秘、知覚異常、体重の減少、その他（ ）
皮膚の色素沈着又は障害、つめの変形、口内炎、鼻粘膜の障害
11. 倦怠感、食欲不振、貧血、黄だん、体重の減少、その他（ ）
口腔粘膜の炎症、歯牙の障害
12. 多汗、縮腫、眼瞼及び顔面の筋線維性攣縮、その他（ ）
13. 頭重、頭痛、疲労感、倦怠感、異味、胃腸症状、その他（ ）
結膜充血
14. 頭重、頭痛、全身倦怠感、悪心、嘔吐、鼻血、不眠、貧血、黄だん、その他（ ）
発疹、結膜炎
15. 頭重、頭痛、眼痛、鼻痛、咽頭部違和感、せき、たん、胸部圧迫感、息ぎれ、胸痛、呼吸困難、
全身倦怠感、体重の減少、その他（ ）
眼、鼻腔及び咽頭の粘膜の炎症、皮膚の炎症
16. 頭重、頭痛、もの忘れ、不眠、倦怠感、悪心、食欲不振、顔面蒼白、手指の振せん、
その他（ ）
てんかん様発作の既往歴
17. せき、たん、上気道刺激症状、その他（ ）
眼、口腔及び鼻腔の粘膜の炎症、皮膚の炎症、歯牙の腐食
18. 胃腸障害、せき、たん、嗅覚鈍麻、その他（ ）
眼、口腔及び鼻腔の粘膜の炎症、皮膚の炎症、つめの変形、歯牙の変色
19. 流涙、眼痛、せき、鼻汁過多、頭痛、めまい、その他（ ）
皮膚の炎症、心悸亢進、眼球突出、甲状腺腫、手指及び眼瞼の振せん、多食、多汗、体重減少
20. 頭痛、もの忘れ、疲労感、めまい、精神不安定感、その他（ ）
視野の狭窄
21. 食欲不振、便秘、せき、嘔声、その他（ ）
口腔粘膜の炎症、歯牙の酸蝕
22. 頭痛、不眠、易疲労性、易興奮性、めまい、悪心、せき、上気道刺激症状、その他（ ）
結膜及び角膜の異常、歯牙の変化
23. 頭重、頭痛、不眠、焦燥感、めまい、下肢の倦怠感又はしびれ感、食欲不振、胃の異常症状、
眼痛、神経痛、その他（ ）
手指の振せん、立体での体のふらつき
24. 疲労感、めまい、頭重、頭痛、不眠、食欲不振、記憶力減退、その他（ ）
25. 血尿、頻尿、排尿痛、その他
26. 顔面蒼白、貧血、チアノーゼ（口唇及び四肢末端の青色）、胃腸障害、体重の減少、めまい、
不眠、耳鳴り、無力感、その他（ ）
27. せき、たん、咽頭痛、頭痛、めまい、易疲労性、倦怠感、食欲不振、甘味嗜好、多汗、発熱、

- 心悸亢進、眼痛、その他（ ）
皮膚の色素沈着及び炎症
28. 食欲不振、脱力感、その他（ ）
にきび、皮膚の黒変
29. 疲労感、めまい、吐気、その他（ ）
30. 頭痛、めまい、耳鳴り、全身倦怠感、易疲労感、不定の上腹部症状、黄だん、黒色便、手指の疼痛又は知覚異常、その他（ ）
31. 食欲不振、せき、たん、眼痛、その他（ ）
皮膚の色素沈着、炎症及びいぼ
32. 頭痛、眼痛、鼻痛、せき、たん、胸痛、咽頭部違和感、その他（ ）
眼、鼻腔及び咽喉の粘膜の炎症、皮膚の炎症
33. 頭痛、めまい、悪心、嘔吐、せき、皮膚そよう感、その他（ ）
鼻腔粘膜の炎症
34. せき、たん、胸痛、呼吸困難、皮膚の蒼白、舌の緑着色、指端の手掌部の角化、手指の振せん、その他（ ）
35. せき、たん、胸痛、体重の減少、その他（ ）
36. 手足のしびれ、歩行障害、発汗異常、その他（ ）
皮膚の炎症
37. せき、たん、胸痛、体重の減少、その他（ ）
38. 頭重、頭痛、肩凝り、胸部違和感、心臓症状、四肢末端のしびれ感、冷感、神経痛、脱力感、胃腸症状、その他（ ）
39. せき、たん、胸痛、体重の減少、その他（ ）
皮膚の炎症
40. せき、たん、嗄声、流涙、脱力感、胃腸症状、その他（ ）
皮膚の炎症、結膜及び角膜の異常
41. 頭重、頭痛、悪心、嘔吐、不眠、焦燥感、めまい、四肢倦怠感、食欲不振、腹痛、その他（ ）
42. せき、たん、息ぎれ、胸痛、その他（ ）
43. せき、たん、嗄声、流涙、脱力感、胃腸症状、その他（ ）
眼及び口腔粘膜の炎症、皮膚の炎症、歯牙の変形
44. せき、たん、その他（ ）
皮膚の炎症

特別定期健康診断（エックス線発生装置及び電子顕微鏡取扱者）

昭和 年 月 日

問診及び皮膚の検査表

所属
氏名

- 異常の有無（該当する事項にVを付してください。）
- 有 無
- 最近、体の調子や手に下記のような異常を気付いた方は有りませんか。
- よく食べ、格別無理な仕事もしていないのに最近特に体が疲れやすく、だるく、よく眠気を催すようになった。
- 手の指や手のひらが乾いて、書物のページをめくり又は紙幣を数えることがうまくいかなかった。
- 温い物を持ち又はお湯に手を入れたとき、普通の人よりも熱く感ずる。
- 普段、手のひらにヒリヒリする感じ、はれぼったい感じ、熱くほてる感じ又は冷える感じがする。
- 手の指先の皮膚がざらざらと荒れて厚くなり、爪に縦の太いすじが出てきた。

健康診断実施年月日	問診及び皮膚の検査	担当医師の印	事後措置・指導区分の内容

著しい騒音を発する場所における業務（電話交換手）

問 診 表

所 属
氏 名

昭和 年 月 日生

1. 自覚症状等の検査

難聴の 有 ・ 無

右

左

耳鳴り 有 ・ 無

耳の閉そく等

2. 聴器の検査

聴力 右 左

せん孔、タイプ、筆耕、速記等による手指、肩、頸部等に障害をうけるおそれのある業務
(タイピスト)

問 診 表

所 属
氏 名

昭和 年 月 日生

1. 自覚症状等の検査

上肢・肩の痛み、又はしびれ等

2. 眼の検査

視力 右 () 左 ()

ふくそう等

3. 上肢・頸部の検査

自動車等の運転を行う業務（自動車運転手）

問 診 表

所 属

氏 名

昭和 年 月 日生

1. 自覚症状等の検査

頭痛、腰痛、胃症状等

2. 眼の検査

視 力 右 () 左 ()

視野等

3. 聴器の検査

聴力等 右 左

4. 平衡機能の検査

5. 胃腸の検査

6. 血圧測定

7. 上肢、頸部・腰部の機能検査

調理・配膳等のため食品を取り扱う業務

問 診 表

所 属

氏 名

昭和 年 月 日生

1. 自覚症状等の検査
(頭痛、神経痛等)
2. 伝染病の検査
(1月ごとに1回) 別に実施
3. 寄生虫の検査 別に実施
(2・3は実施済を確認すること)
4. 皮膚の検査
(洗剤による皮膚の炎症)
5. 腰部の機能検査

6) 昭和63年職員特別定期健康診断実施結果

検査項目 部局	有害薬品(1号)				病原体(4号)				チェンソー(5号)				騒音(10号)				放射線		
	対象者	受診実人員	受診延人員	受診率	経過観察実施数	対象者	受診実人員	受診延人員	受診率	経過観察実施数	対象者	受診実人員	受診延人員	受診率	経過観察実施数	対象者	受診実人員	受診延人員	
事務局 学生部 (保健管理センターを含む)	1	1	1	100		8	8	13	100		4	4	4	100	1	1	1		
教育学部	6	6	6	100											5	5	20		
医学部	10	5	5	50	188	161	317	86	5						47	40	174		
医学部 附属病院	35	32	32	91	436	411	854	94							103	101	399		
工学部	20	14	14	70											13	12	48		
農学部	12	10	10	83	16	16	25	100	4	4	4	100			27	26	104		
教養部															2	2	7		
附属 図書館															2	2	3		
工業短期 大学部	4	3	3	75															
計	88	71	71	81	648	596	1,209	92	5	4	4	4	100	4	4	4	100	198 187 756 198 187 359	

(注) 1) 放射線の上段数字は問診及び皮膚の検査、下段数字は血液の検査を示す。
2) 調理配ぜんの上段数字は伝染病の検査、下段数字は寄生虫及び皮膚の検査を示す。

検査項目 部局	(2号)				タイピスト(3号)				理学法士(4号)				深夜作業(6号)				自動車運転手(7号)				調理配ぜん(8号)					
	対象者	受診実人員	受診延人員	受診率	経過観察実施数	対象者	受診実人員	受診延人員	受診率	経過観察実施数	対象者	受診実人員	受診延人員	受診率	経過観察実施数	対象者	受診実人員	受診延人員	受診率	経過観察実施数	対象者	受診実人員	受診延人員	受診率	経過観察実施数	
事務局 学生部 (保健管理センターを含む)	1	1	1	100																						
教育学部																										
医学部																										
医学部 附属病院																										
工学部																										
農学部																										
教養部																										
附属 図書館																										
工業短期 大学部																										
計	8	7	7	88							2	2	2	100	205	197	197	96	7	3	3	43	25	25	291	100

3. 昭和63年度保健管理施設利用状況

区 分	柳戸地区(教育・工・農・短・教養・本部)			司地区(医)	
	学 生	職 員	計	学 生	
利用者 総数	内科的処置	1,569 (68)	1,967 (56)	3,536 (124)	104
	外科的処置	659 (26)	175 (3)	834 (29)	58
	整形外科的処置	182 (12)	191 (2)	373 (14)	
	眼科的処置	65 (12)	15 (3)	80 (15)	
	耳鼻科的処置	15 (2)	25 (2)	40 (4)	
	皮膚科的処置	99 (7)	182 (1)	281 (8)	
	歯科口腔外科的処置	28 (3)	20	48 (3)	
	精神神経科的処置	351	47	398	
	泌尿器科的処置	5 (1)	4	9 (1)	
	婦人科的処置	46 (1)	4	50 (1)	
	傷病外利用	1,478 (1)	42	1,520 (1)	251
	計	4,497 (133)	2,672 (67)	7,169 (200)	413
利用者 の内 訳	健康相談				
	身体的面	2,465	2,181	4,646	
	精神的面	352	46	398	
	計	2,817	2,227	5,044	
	救急処置				
	創部処置	623	140	763	58
	湿布	171	26	197	
	洗点眼	11	4	15	
	投薬	756	1,613	2,369	104
	注射	2		2	
	ベット休養	66	4	70	
	その他	12	5	17	
計	1,641	1,792	3,433	162	
検査					
尿検査	316	187	503		
血圧測定	240	516	756		
心電図検査	51	17	68		
血液検査	赤沈	3		3	
	血糖検査	22	59	81	
	肝機能検査				
	貧血検査	24	17	41	
採血	308	222	530		
その他					
糖負荷試験	3	6	9		
脳波検査					
検温	547	305	852		
診察	537	519	1,056		
身体計測	67	78	145		
その他	30	44	74		
計	2,148	1,970	4,118		
その他					
救急薬品貸出	128	11	139		
証明書発行	1,309	26	1,335		
互助会相談	1		1	251	
その他	28	3	31		
延件数	8,072	6,029	14,101	413	

計		合 計	備 考
学 生	職 員		
1,673 (68)	1,967 (56)	3,640 (124)	()内数字は、専門医に紹介した件数を内数で示す。
717 (26)	175 (3)	892 (29)	
182 (12)	191 (2)	373 (14)	
65 (12)	15 (3)	80 (15)	
15 (2)	25 (2)	40 (4)	
99 (7)	182 (1)	281 (8)	
28 (3)	20	48 (3)	
351	47	398	
5 (1)	4	9 (1)	
46 (1)	4	50 (1)	
1,729 (1)	42	1,771 (1)	
4,910 (133)	2,672 (67)	7,582 (200)	
2,465	2,181	4,646	
352	46	398	
2,817	2,227	5,044	
681	140	821	
171	26	197	
11	4	15	
860	1,613	2,473	
2		2	
66	4	70	
12	5	17	
1,803	1,792	3,595	
316	187	503	
240	516	756	
51	17	68	
3		3	
22	59	81	
24	17	41	
308	222	530	
3	6	9	
547	305	852	
537	519	1,056	
67	78	145	
30	44	74	
2,148	1,970	4,118	
128	11	139	
1,309	26	1,335	
252		252	
28	3	31	
8,485	6,029	14,514	

昭和63年度月別保健管理施設利用状況（学生）

区 分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	
利用者 総数	内科的処置	264 (5)	225 (7)	191 (17)	94 (3)	33 (4)	
	外科的処置	42 (4)	86 (3)	110 (3)	41 (3)	24 (2)	
	整形外科的処置	18 (3)	29	37 (2)	10 (1)	3	
	眼科的処置	3 (1)	7 (3)	14 (3)	2	6 (1)	
	耳鼻科的処置	2 (1)	3	2		2 (1)	
	皮膚科的処置	7 (2)	14 (1)	13	10 (2)	12 (1)	
	歯科口腔外科的処置	5	4	5	1		
	精神神経科的処置	72	84	44	9	7	
	泌尿器科的処置			4 (1)	1		
	婦人科的処置	6	4	4	7	3	
	傷病外利用	50	176	335	283	369 (1)	
	計	469 (16)	632 (14)	759 (26)	458 (9)	459 (9)	
利用者 の内訳	健康相談	身体的面	327	325	321	134	64
		精神的面	72	84	44	9	7
		計	399	409	365	143	71
	救急 処置	創部処置	41	85	100	43	23
		湿布	13	30	40	10	7
		洗点		2			1
		投薬	79	93	99	58	31
		注射					
		ベット休養	7	9	9	5	2
		その他		4	2		
		計	140	223	250	116	64
	検査 その他	尿検査	52	97	29	12	8
血圧測定		12	18	21	24	6	
心電図検査		7	7	10	18		
血液検査		赤沈	1				
		血糖検査	3	6	2	4	
		肝機能検査					
		貧血検査			10	5	
採血		126	14	21	7		
糖負荷試験		1			1		
脳波検査							
検温	45	58	63	31	5		
診察	45	47	61	49	10		
身体計測	2	3	2	7	10		
その他		4	12	2	2		
	計	294	254	231	160	41	
その他	救急薬品貸出	4	12	10	48	13	
	証明書発行	25	145	310	202	333	
	互助会相談	20	16	19	26	18	
	その他の他	2	1		6	4	
延件数	884	1,060	1,185	701	544		

() 内数字は、専門医に紹介した件数を内数で示す。

9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
59 (1)	343 (7)	109 (2)	149 (6)	113 (9)	57 (3)	36 (4)	1,673 (68)
82	99 (1)	91 (5)	62 (1)	33 (3)	25	22 (1)	717 (26)
10 (1)	13 (1)	23 (1)	16 (1)	11 (1)	6 (1)	6	182 (12)
13 (1)	7	3 (1)	4 (1)	4	1 (1)	1	65 (12)
1	3			2			15 (2)
4	11	7 (1)	8	7	3	3	99 (7)
3	1	2 (1)	1	3 (1)	2 (1)	1	28 (3)
19	19	10	31	27	7	22	351
							5 (1)
3	2	2	8 (1)	2	5		46 (1)
158	56 (1)	41	78	86	31	66	1,729 (1)
352 (3)	554 (10)	288 (11)	357 (10)	288 (14)	137 (6)	157 (5)	4,910 (133)
137	439	204	219	151	87	57	2,465
20	19	10	31	27	7	22	352
157	458	214	250	178	94	79	2,817
76	88	83	68	29	24	21	681
11	16	17	8	8	6	5	171
1	1	1	4		1		11
57	110	78	96	78	55	26	860
		1	1				2
6	4	8	3	6	7		66
	4	1		1			12
151	223	189	180	122	93	52	1,803
5	48	15	18	24	3	5	316
7	82	21	19	21	3	6	240
		2	6			1	51
	1			1			3
	5	2					22
1			3	3	1	1	24
3	125	2	4	4	1	1	308
			1				3
24	82	53	78	59	37	12	547
23	69	40	74	74	33	12	537
6	8	3	11	11		4	67
2	1		7				30
71	421	138	221	197	78	42	2,148
11	2	5	7	5	3	8	128
111	35	13	35	61	13	26	1,309
28	19	23	25	19	14	25	252
5			2	1	1	6	28
534	1,158	582	720	583	296	238	8,485

昭和63年度月別保健管理施設利用状況（職員）

区 分		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
利用者 総数	内科的処置	157	123	195 (5)	165 (12)	174 (7)
	外科的処置	17	11	17 (1)	8	10
	整形外科的処置	12	26 (2)	28	17	18
	眼科的処置	1 (1)	2	2	1 (1)	3
	耳鼻科的処置	4	5	2	2	2
	皮膚科的処置	9	29	21	19	33 (1)
	歯科口腔外科的処置	2			3	3
	精神神経科的処置	4	1	3		5
	泌尿器科的処置				2	
	婦人科的処置		1		1	1
	傷病外利用		1	1	3	2
計		206 (1)	199 (2)	269 (6)	221 (13)	251 (8)
利用者 の内 訳	健康相談					
	身体的面	172	157	224	180	189
	精神的面	4	1	3		5
	計	176	158	227	180	194
	救急処置					
	創部処置	12	27	15	5	6
	湿布	2	3	7	3	5
	洗点		1			1
	投薬	127	126	132	113	141
	注射					
	ベット休養		2	1		
その他			1		1	
計	141	159	156	121	154	
検査						
尿検査	4	2	34	40	9	
血圧測定	20	25	80	59	47	
心電図検査		1	4		1	
血液検査						
赤沈						
血糖検査	1	1	15	8	3	
肝機能検査						
貧血検査	1	1	4	2	2	
採血	41	8	20	46	4	
糖負荷試験			3			
脳波検査						
検温	18	16	20	11	10	
診察	15	16	45	67	36	
身体計測	1		5	5	5	
その他	1	3	2	8	6	
計	102	73	232	246	123	
その他						
救急薬品貸出		1			2	
証明書発行				2		
互助会相談						
その他の		1	1			
延件数		419	392	616	549	473

() 内数字は、専門医に紹介した件数を内数で示す。

9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
130 (1)	199 (3)	217 (5)	168 (5)	153	143 (3)	143 (15)	1,967 (56)
17	23	19 (1)	14	11	21 (1)	7	175 (3)
19	13	12	11	15	10	10	191 (2)
2	1	1	1		1		15 (3)
2 (1)	1	2 (1)			1	4	25 (2)
17	11	8	7	6	9	13	182 (1)
1	1	2	1	4		3	20
4	4	4	2	3	2	15	47
1					1		4
				1			4
4	2	6	7		2	14	42
197 (2)	255 (3)	271 (7)	211 (6)	193	192 (4)	209 (15)	2,672 (67)
156	214	232	174	166	162	155	2,181
4	4	4	2	2	2	15	46
160	218	236	176	168	164	170	2,227
17	12	9	6	12	17	2	140
1	1	1	1	1	1		26
1	1						4
111	149	149	153	150	127	135	1,613
1							4
	1			2			5
131	164	159	160	165	145	137	1,792
12	12	19	19	7	10	19	187
43	35	49	42	41	40	35	516
	1		1	2	4	3	17
5	5	5	5	4	3	4	59
		1		3	2		17
6	51	25	6	4	6	5	222
1			1			1	6
23	40	31	46	48	30	12	305
44	45	82	52	53	42	22	519
9	6	22	5	3	3	14	78
3	2	16	2			1	44
146	197	250	179	165	141	116	1,970
2	1	2	2			1	11
2	1	4	5			12	26
						1	3
441	581	651	522	498	450	437	6,029

II 「健康のしおり」の発刊について

保険管理センターでは、昭和57年2月に「健康のしおり—健康管理—」を創刊号として発行して以来、学生が日常生活をして行く上に必要かつ一般的でしかも身近な問題を取り上げ、それを症状別・臓器別・疾病別等に分け、分かりやすく編集している。既に18号まで刊行し、学生及び教職員に配布して好評を得てきた。今回も前回に引続き健康のしおり19・20号を発行し配布するとともに、今後も引続き発行する予定である。

健康のしおり

1. —健康管理—
2. —健康づくり—
3. —心の健康—
4. —かぜ症候群—
5. —頭痛—
6. —尿検査で、尿糖(+)言われたら—
7. —心臓の話—
8. —腹痛について—
9. —心雑音及び心音について—
10. —動悸について—
11. —尿潜血(+)といわれたら—
12. —蛋白質(+)といわれたら—
13. —血圧について—
14. —アルコールと消化器—
15. —アルコールと消化器(Ⅱ)—
16. —糖尿病—治療について—
17. —胃を悪くした時の話—
18. —糖尿病—治療について—その2
19. —甲状腺について—
20. —高血圧について—
21. —コレステロールと中性脂肪—
22. —狭心症と心筋梗塞—

なお、これらのことについて更に詳しく知りたい方は、保健管理センターへおいでください。

また、保健管理センターでは、心身の健康上の問題はもちろんのこと、誰に相談してよいか分からないようないろいろな悩み事についても相談に乗っています。相談内容の秘密は守られますので気軽に利用してください。（電話でも受け付けます。）

身近な人達にも利用を勧めてください。

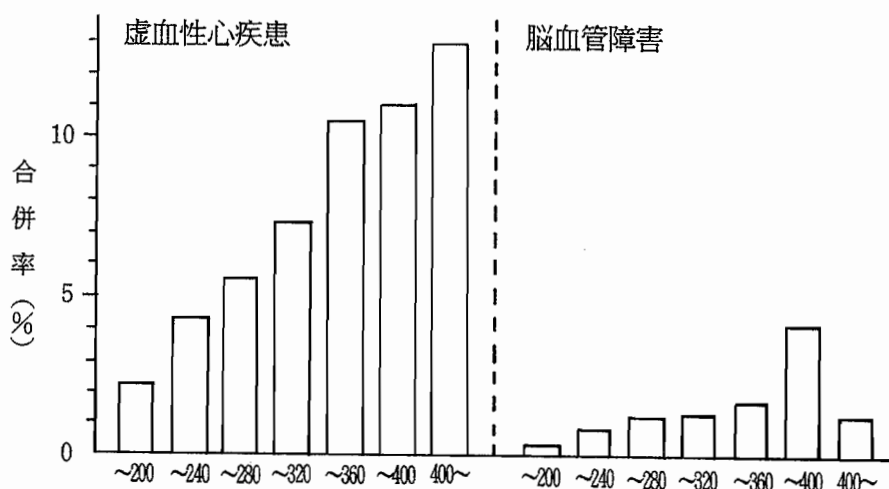
保健管理センター <0582>30-1111 内線 2811・2812

コレステロールと中性脂肪

コレステロールと中性脂肪は人間の身体の中で重要な働きをしています。コレステロールは身体を構成する細胞の膜やステロイドホルモン、胆汁酸などの材料となります。中性脂肪はエネルギーの貯蔵庫として働きます。

このように体の中で重要な成分のコレステロールと中性脂肪ですが、これらが血液中に異常に増加すると弊害が生じてきます。コレステロールや中性脂肪が増加した状態を高脂血症あるいは高脂質血症と呼びます。高脂血症は動脈硬化をを引き起こし、狭心症、心筋梗塞、脳卒中、腎障害などの原因となります。特に、コレステロールは動脈硬化と密接な関係があります。コレステロール値と合併症の関係を図に示しました。コレステロール値が高くなるほど合併率も上昇します。高脂血症には肥満を伴うことが多く、肥満もこれらの障害を促進します。コレステロールや中性脂肪と体重の関係について具体的な例を挙げます(表1)。本学職員の間人ドックの結果から抜粋したのですが、第一例では著明な肥満(+22%)とコレステロールの高値がみられます。第二例では過食による体重増加とともに、コレステロールと中性脂肪の値が増加してきています。

図 総コレステロール値と血管疾患合併率



〔垂井清一郎、厚生省特定疾患「原発性高脂血症」調査研究班研究報告書、昭和62年3月より〕

表1 岐阜大学職員における人間ドック結果

年	悪 化 例					改 善 例	
	第 一 例		第 二 例			第 三 例	
	S.63	H. 1	S.62	S.63	H. 1	S.63	H. 1
身長 (cm)	166	166	162	162	162	159	159
体重 (kg)	71	72	56	59	60	68	64
肥満度 (%)	20	22	-1	3	5	23	16
総コレステロール (mg/dl)	320	291	186	234	229	211	168
中性脂肪 (mg/dl)	174	141	155	370	343	154	151

(S : 昭和、 H : 平成)

高脂血症の原因はいろいろありますが、1つには家族性、遺伝性のものです。この場合は子供の頃からコレステロールが高く、若くして動脈硬化や心筋梗塞になります。これに対して、非家族性のもの、すなわち糖尿病や痛風、甲状腺機能低下症、ネフローゼ症候群などの疾患に伴う場合や食べ過ぎによる場合があります。日常で特に問題となるのは食べ過ぎによる場合です。

なお、コレステロールにも善玉コレステロールと呼ばれているものがあり、HDLコレステロールといいます。HDLコレステロールは動脈硬化を抑制する働きがあります。このための血液中のHDLコレステロールが低下すると狭心症や心筋梗塞の合併率が高くなります。コレステロールや中性脂肪が増加している場合、HDLコレステロールは減少していることが多く見られます。

コレステロールや中性脂肪が増えてもそれ自体では自覚症状はありません。そのため、十分な養生や治療を行わず、心筋梗塞や脳卒中を起こしてしまうことが多く見受けられます。高脂血症が発見されたら、早期から治療し、合併症を予防する事が大切です。血液中のコレステロールの理想値は150~200mg/dlくらい中性脂肪は50~140mg/dlくらいです。治療を始める目安ですが、だいたい表2に示すような基準で行います。

表2 治療開始の基準

	治療開始レベル
血清コレステロール	220 mg/dl
血清トリグリセライド	150 mg/dl
HDL-コレステロール	40 mg/dl

〔ただし 1) 血清総コレステロールが低値で血清トリグリセライドのみがやや高値の場合は特に治療する意義はない。
2) HDL-コレステロールについても血清トリグリセライドの関係をみて判定する。〕

(五島雄一郎、日本医事新報 No. 3359, P 3~8より)

治療は食事療法が基本となります。まず、①摂取カロリーを制限する。過食しないということです。②コレステロール摂取を制限する。1日コレステロール摂取量を300mg以下にします。1例として(表3)、卵は卵白にはコレステロールは含まれませんが、卵黄には1個で262mg含まれますので注意が必要です。コレステロール含量の少ない食品でもたくさん摂れば、トータルのコレステロール摂取量は多くなります。③動物性脂肪の摂取を制限する。動物性脂肪に多く含まれる飽和脂肪酸はコレステロールを増加させ、植物性脂肪に多く含まれる不飽和脂肪酸はコレステロールを低下させるとされています。しかし、植物性脂肪の取り過ぎはカロリー摂取過剰になります。④果糖や蔗糖などの糖質の摂取を制限する。これらは中性脂肪を増やします。菓子類やジュース、果物などに多く含まれます。なお、②③④に注意するあまりに栄養のバランスを崩さないように注意してください。⑤アルコールを控える。アルコールは中性脂肪を増加させます。また、飲酒時の肴にも注意が必要です。⑥食物繊維を多く取る。食物繊維はコレステロールの排泄を促し、食物繊維を多く取ると、カロリーを上げずに食事のかさが増し、食事制限による精神的負担を軽くできます。食物繊維の多いものにはヒジキ、ワカメなどの海藻類、コンニャク、ゴボウ、ニンジンなどの野菜類、シイタケなどのきのこ類、豆類、穀類があります。⑦植物性蛋白質を十分取る。これは体内の脂肪の代謝を改善します。

食事療法による改善例を示します。表1の第三例ですが、まだ肥満傾向にはありま

すが、体重の減少とともにコレステロール値は正常レベルに改善しています。特に肥満傾向にある人には、体重が食事療法の効果の目安になります。

運動療法も大切な治療ですが、実生活で毎日一定量の運動することは容易ではありません。人間生きて行くために必ず食事は摂ります。まず、食事療法を心がけることが早くてこ確実な方法です。もちろん食事療法で改善しない場合は薬による治療が必要となります。

健康診断を受診されたら、必ず保健管理センターにお立ち寄りください。検査に対する正しい判断を受けて、自分にあった治療をスタートしてください。

表3 食品単位あたりコレステロール含量

分類	食品名	目安量	g	コレステロール (mg)	分類	食品名	目安量	g	コレステロール (mg)	分類	食品名	目安量	g	コレステロール (mg)	
油脂類	牛脂	大さじ1杯	10	10	貝類	かまぼこ	1切れ	15	6	卵類	〃(舌)	〃	〃	81	
	バター	〃	〃	21		さつま揚げ	中1個	50	31		〃(胃)	〃	〃	〃	148
	マーガリン	〃	〃	0		ちくわ	大1本	100	76		コンビーフ缶詰	〃	〃	〃	94
	ラード	〃	〃	11		はんぺん	中1枚	60	14		鯨(赤肉)	〃	〃	〃	53
	豚脂	〃	〃	12		あおやぎ	むき身10個	40	8		鶏(鶏肉)	〃	〃	100	131
							赤貝	1個	20		5	〃(ひな肉)	〃	〃	〃
魚類	あじ	中1尾	100(60)	43	あさり	10個	30	11	〃(ささみ)	小3本	〃	〃	54		
	あこうだい	1切れ	80	54	あわび	1個	300(120)	109	馬肉	〃	〃	〃	74		
	あゆ	中1尾	60(35)	28	かき	むき身1個	10	6	羊肉	〃	〃	〃	93		
	いさき	中1尾	140(70)	31	たいら貝	1個	20	5	豚(もも)	〃	〃	〃	68		
	いわし	中1尾	50(30)	25	さざえ	1個(身)	50	76	〃(バラ)	〃	〃	〃	79		
	うなぎ(生)	中1尾	150(100)	82	しじみ	むき身1カップ	45	24	〃(ロース)	〃	〃	〃	74		
	かつお	1切れ	80	42	はまぐり	1個	25(8)	3	〃(肩ロース)	〃	〃	〃	84		
	かます	中1尾	80(50)	67	ほたて貝柱	〃	50	50	〃(ひき肉)	〃	〃	〃	49		
	かれい	中1尾	200(110)	65	いか、たこ、えび、かに類				〃(肝臓)	〃	〃	〃	309		
	きす	中1尾	40(20)	25	あみ佃煮	大さじ1杯	8	17	〃(焼豚)	〃	〃	〃	89		
	くさや	中1尾	35(25)	44	い	1尾	300(230)	718	ハム(ロース)	1枚	20	〃	15		
	こうご佃煮	大さじ1山もり	20	84	す	める	中1枚	100	625	〃(プレス)	〃	〃	〃	14	
	さけ(生)	1切れ	80	58	う	に	1個	10	22	〃(ボンレス)	〃	〃	〃	13	
	塩さけ	1切れ	60	41	練う	に	大さじ1杯	10	56	ベーコンソーセージ(ボーク)	1本	15	〃	17	
	すじこ	大さじ1杯	20	80	伊勢えび	中1尾	250(100)	183	183	〃(サラミ)	〃	150	〃	8	
	さば	1切れ	80	56	車えび	〃	50(25)	57	卵類	鶏卵	1個	50	〃	214	
	さんま	中1尾	140(90)	94	芝えび	〃	10(6)	11	卵黄色	1個分	20	〃	262		
	ししゃも	中1尾	20	37	桜えび	1カップ	20	180	卵白	〃	30	〃	0		
	たら	1切れ	80	56	がごみかに	中1匹	180(60)	50	乳類	牛乳(普通乳)	1本	200	〃	22	
	たらこ	中1腹	80	236	たらばがに	足1本	120(40)	32	〃(脱脂乳)	〃	〃	〃	32		
	にしん(生)	中1尾	150(100)	85	たこ	〃	100	66	アイスクリーム(高脂肪)	カップ1個	90	〃	39		
	かずの(生)	1個	50	131	獣鳥類	牛(もも)	100	76	〃(低脂肪)	〃	〃	〃	23		
	にじます	1尾	110(65)	46	肉類	〃(肩ロース)	〃	90	チーズ(カテージ)	大さじ1スライス1枚	10	〃	1		
	はぜ(佃煮)	1尾	10	48	〃(バラ)	〃	〃	83	〃(プロセス)	〃	20	〃	16		
	ひらめ	1切れ	80	49	〃(ヒレ)	〃	〃	77	調味品	ドレッシング	大さじ1杯	15	〃	21	
	ぶり	〃	80	72	〃(肝臓)	〃	〃	277	マヨネーズ	〃	〃	〃	29		
	からすみ	1個	80	336	〃(心臓)	〃	〃	127							
	まぐろ(刺身)	1人分	100	46											
わかさぎ	1尾	6	4												

(毎日ライフ、1988年、12月号より)

狭心症と心筋梗塞

狭心症と心筋梗塞—皆さんも一度はこの言葉を聞いたことがあると思います。さてこれらの病気はいったいどの様な病気かを簡単に説明してみたいと思います。

心臓は私たちが生きていくうえでかけがえのないものですが、その働きは皆さんも充分知っているとおり体中のあらゆる繊維及び臓器に酸素を供給するため、全身に血液を送りこむポンプの役割を果たしてします。このポンプは非常に強力なポンプで昼夜一度も休むことなく1日中約10万回も動いてよどみなく全身に血液を送り出しています。具体的に数字をあげて説明いたしますと、1回心臓が動くと約80ミリリットル、コップ半分くらいの血液を送り出し、1分間で5リットル、1時間で300リットル、1日で7,200リットル 1年ではなんと263万リットルとなり、これは普通のプール(縦25メートル、横15メートル、深さ1.5メートル)の約3分の2の量となり非常に優秀なポンプということがいえます。

心臓はこの様に全身へ血液を送っていると同時に自分にも血液を送り酸素を供給して動いています。この自分自身への血液の通り道を冠状動脈と呼んでいます。心臓を王冠の様に包みこむ血管で大動脈の根元から左右に一本ずつ分岐した左はさらに2本にわかれ心臓全体すみずみに分枝しています。これにより心臓を動かすエネルギーを心筋のすみずみすまで供給しており心臓は心臓は自身によって動いているといってもよいと思います。そして心臓の動きをコントロールする命令系統が自律神経で、心臓の動きを速めるのが交感神経、逆におそくするのが副交感神経といわれ、心臓を自動車にたとえるなら交感神経はアクセルであり副交感神経はブレーキに相当します。そして私達は知らず知らずのうちにこの両者を上手にコントロールしてそのときの体にあった心拍数をつくり出しています。

狭心症と心筋梗塞—これら病気は今お話しした冠状動脈のどこかで血液の流れが悪くなっておこる病気これをまとめて虚血性心疾患と呼ぶこともあります。狭心症は冠状動脈が動脈硬化性の変化をうけてその内腔が狭くなり、その中を流れる血液が少なくなりその結果心筋への酸素の供給量が少なくなる事によって心筋の酸素不足をおこして発症します。症状としては、突然胸がしめつけられ、焼け火ばしで胸をえぐら

れるような痛みが生じ、安静にしていればいずれも心筋への酸素不足がなくなり、痛みは消失します。

心筋梗塞は冠状動脈のどこかで血液の流れが詰まってしまい、そこから先へは血液がまったく行かなくなり、その血管の酸素と栄養を受けている部分の細胞が死んでしまう病気です。これも突然胸がしめつけられ激しい痛みを併いますが、狭心症のように痛みが消失することはありません。この心筋梗塞も原因の大部分は冠状動脈の動脈硬化とされています。

それでは、この狭心症と心筋梗塞を予防する方法はないのでしょうか？ 両者とも原因の大部分は動脈硬化ですので、この動脈硬化さえ予防できればよいのです。そうは簡単にはいきません。年齢が上がるにつれ全身の血管の内側にはコレステロールのような脂質やカルシウムなどが沈着しはじめ血液の流れが悪くなり、さらに血管壁にも病的な変化がみられ壁も硬くなってきます。この状態が一般に動脈硬化と呼ばれる状態でこの状態が冠状動脈に強くみられるのが冠状動脈硬化症です。この冠状動脈硬化症を促進するものがいくつも知られており、これを冠状動脈疾患危険因子 coronary risk factor と呼び代表的なものとして、高血圧・喫煙・高脂血症・ストレス・通風・糖尿病・肥満・運動不足などが挙げられます。これらの危険因子がある人は必ず狭心症及び心筋梗塞になるとは限りませんが、これらの危険因子をもつ人に狭心症及び心筋梗塞の発症が高いのは事実です。

この危険因子のうちで最もよくないとされているのは喫煙でタバコと聞くとすぐに肺ガンなどを思い浮かべますが、冠状動脈にも多大な影響を与えます。世界各国の疫学調査によると、喫煙者は非喫煙者に比べて、約2倍冠状動脈疾患になりやすいとの結果がでています。喫煙者は体の中は慢性の一酸化炭素中毒の状態に陥っており、これが全身の酸素欠乏状態をひきおこして動脈硬化を促進させているのです。又、最近の研究で喫煙が血管内で血液を固まりやすくしている事がわかりました。これは、とりもなおさず喫煙が狭心症及び心筋梗塞の発生母体となることを意味しているのです。狭心症及び心筋梗塞になりたくなかったら、一刻も早くたばこをやめることが賢明です。

すべての危険因子をなくすことは不可能なことですが、出来る限りこの危険因子を生活や環境から排除し、快適な生活をしていこうではありませんか。

Ⅲ 研究・調査報告

1. 昭和63年度入学生の健康管理カードによる健康調査の集計結果

1) 自覚症状

自覚症状	教育学部			医学部			工
	男	女	計	男	女	計	男
1. よく風邪をひく	16	45	61	10	2	12	47
2. ひどい寝汗をかくことがある	5	56	61	3	8	11	28
3. 口が渇くことがある	17	51	68	7	3	10	67
4. 顔や下肢がむくむことがある	3	3	6	2		2	13
5. おなかをよくこわす	14	64	78	7	5	12	65
6. よく便秘をする	9	13	22	5	1	6	19
7. 頭が重かったり痛んだりすることがある	19	27	46	9	2	11	72
8. めまい・立ちくらみがすることがある	27	98	125	9	9	18	147
9. 息苦しくなって困ることがある	23	50	73	6	4	10	79
10. 疲れやすく元気がない	1	10	11		1	1	7
11. 手足のつることがある	4	5	9	1		1	10
12. めだって体重が増減したことがある	3	7	10	3	1	4	5
13. 関節・腰などに痛みを感じることがある	25	57	82	11	5	16	111
14. 薬剤使用後に熱・発疹が出たり気分が悪くなったことがある	10	17	27	2		2	25
入学生数	105	246	351	66	20	86	445
健康調査済者数	102	238	340	60	19	79	427

学部	農学部			合計			工業短期大学部			
	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
3	50	26	12	38	99 (13.0)	62 (17.9)	161 (14.5)	28	1	29 (14.7)
2	30	12	20	32	48 (6.3)	86 (24.8)	134 (12.1)	10		10 (5.1)
1	68	37	10	47	128 (16.8)	65 (18.7)	193 (17.4)	30		30 (15.2)
	13	7		7	25 (3.3)	3 (0.9)	28 (2.5)	7	1	8 (4.1)
2	67	27	20	47	113 (14.9)	91 (26.2)	204 (18.4)	31	3	34 (17.3)
	19	9	4	13	42 (5.5)	18 (5.2)	60 (5.4)	3	3	6 (3.0)
1	73	35	10	45	135 (17.8)	40 (11.5)	175 (15.8)	14	1	15 (7.6)
6	153	51	26	77	234 (30.8)	139 (40.1)	373 (33.7)	56	3	59 (29.9)
2	81	25	15	40	133 (17.5)	71 (20.5)	204 (18.4)			
	7		3	3	8 (1.1)	14 (4.0)	22 (2.0)	9		9 (4.6)
	10	9	1	10	24 (3.2)	6 (1.7)	30 (2.7)	27		27 (13.7)
2	7	3	4	7	14 (1.8)	14 (4.0)	28 (2.5)	13		13 (6.6)
5	116	51	18	69	198 (26.1)	85 (24.5)	283 (25.6)	31	4	35 (17.8)
	25	11	7	18	48 (6.3)	24 (6.9)	72 (6.5)	3		3 (1.5)
19	464	177	75	252	793	360	1,153	199	7	206
17	444	171	73	244	760 (95.8)	347 (96.4)	1,107 (96.0)	190	7	197 (95.6)

() 内は、健康調査済者数に対する%
 < > 内は、入学生数に対する%

2) 自覚症状数

自覚症状	教育学部			医学部			工学部		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0	43	72	115	36	6	42	180	10	190
1	26	56	82	9	2	11	126	1	127
2	20	61	81	8	6	14	62	4	66
3	9	28	37	3	4	7	34	2	36
4	3	14	17	2	1	3	20		20
5	1	4	5	2		2	4		4
6		2	2				1		1
7		1	1						
8 以上									
入学生数	105	246	351	66	20	86	445	19	464
健康調査済者数	102	238	340	60	19	79	427	17	444

農学部			合計			工業短期大学部		
男	女	計	男	女	計	男	女	計
69	24	93	328 (43.2)	112 (32.3)	440 (39.7)	66		66 (33.5)
48	24	72	209 (27.5)	83 (23.9)	292 (26.4)	49	3	52 (26.4)
23	7	30	113 (14.9)	78 (22.5)	191 (17.3)	43	2	45 (22.8)
21	11	32	67 (8.8)	45 (13.0)	112 (10.1)	11		11 (5.6)
5	4	9	30 (3.9)	19 (5.5)	49 (4.4)	15	1	16 (8.1)
3	3	6	10 (1.3)	7 (2.0)	17 (1.5)	3	1	4 (2.0)
2		2	3 (0.4)	2 (0.6)	5 (0.5)	2		2 (1.0)
				1 (0.3)	1 (0.1)	1		1 (0.5)
177	75	252	793	360	1,153	199	7	206
171	73	244	760 <95.8>	347 <96.4>	1,107 <96.0>	190	7	197 <95.6>

3) 既往症

病名	教育学部			医学部			工学部		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1. 肺結核									
2. その他の結核									
3. 心疾患	1	1	2				2		2
4. 腎疾患	3	1	4	4		4	5		5
5. 肝疾患							2		2
6. 気管支喘息	5	4	9	6		6	6		6
7. 貧血	3	15	18		1	1	4		4
8. リウマチ		1	1				1		1
9. 小児マヒ									
10. てんかん							1		1
11. ノイローゼ		1	1				1		1
12. 精神神経疾患		1	1						
13. 交通事故による疾患	2	3	5				3		3
14. その他	1	3	4	3		3	11		11
入学生数	105	246	351	66	20	86	445	19	464
健康調査済者数	102	238	340	60	19	79	427	17	444

農学部			合計			工業短期大学部		
男	女	計	男	女	計	男	女	計
			3 (0.4)	1 (0.3)	4 (0.4)	1		1 (0.5)
1		1	13 (1.7)	1 (0.3)	14 (1.3)			
1	1	2	3 (0.4)	1 (0.3)	4 (0.4)	2		2 (1.0)
2	4	6	19 (2.5)	8 (2.3)	27 (2.4)	1		1 (0.5)
5	2	7	12 (1.6)	18 (5.2)	30 (2.7)	1		1 (0.5)
			1 (0.1)	1 (0.3)	2 (0.2)		1	1 (0.5)
			1 (0.1)		1 (0.1)			
			1 (0.1)	1 (0.3)	2 (0.2)			
				1 (0.3)	1 (0.1)			
			5 (0.7)	3 (0.9)	8 (0.7)			
12	4	16	27 (3.6)	7 (2.0)	34 (3.1)			
177	75	252	793	360	1,153	199	7	206
171	73	244	760 <95.8>	347 <96.4>	1,107 <96.0>	190	7	197 <95.6>

2. 昭和63年度教育・I・農学部卒業生の保健管理センター利用状況調べ

		教育学部	工学部	農学部	合計	率
卒業生数		316	348	168	832	
センター利用者数		210	196	108	514	61.8%
精神的相談者数		66	58	30	154	30.0%
60 年度 入学生	入学生数	330	360	211	901	
	総卒業生数	286	270	157	713	79.1%
	センター利用者数	185	151	92	428	60.0%
	精神的相談者数	54	43	27	124	17.4%

3. 昭和62年度・昭和63年度

工業短期大学部卒業生の保健管理センター利用状況調べ

		昭和62年度卒業		昭和63年度卒業	
卒業生数		123		144	
センター利用者数		29	23.6%	26	18.1%
精神的相談者数		15	12.2%	19	13.2%
60 年度 入学生	入学生数	200		193	
	総卒業生数	103	51.5%	121	62.7%
	センター利用者数	28	27.2%	20	16.5%
	精神的相談者数	14	13.6%	15	12.4%

4. 昭和63年度・休学・退学・除籍者調べ

理由	区分		休学者数						退学者数						除籍者数							
	学部	学部	教育	医	工	農	小計	大学院	工短	合計	教育	医	工	農	小計	大学院	工短	合計				
病気の ため	精神障害 核 その他	計	2			2	4			4	1											
					1			1														
					2	1		2	5			5										
					2	1	2	5				5	1									
一身上の都合			2	38	12	70	3	19	92	10		19	3	32	11	19	62					
家庭の都合				3		3		1	4							1	1					
勤務の都合								20	20							19	19					
その他			1			1		2	7													
計			19	4	42	14	79	5	128	11		19	4	32	11	39	82					
死	病 事 自 その他	計																				
亡	病 事 自 その他	計																				
その他	病 事 自 その他	計																				
合計			19	4	42	14	79	5	128	11	19	4	34	11	39	84	2	2	2	6	35	41

5. 肺結核と自然気胸

— 保健指導を中心に —

岐阜大学保健管理センター

中尾 けさじ 白木 尚 村瀬 寛

林垣 可代子 丹羽 美穂子 山中 栄子

栗本 良子

学 校 医 平野 高広

1) 肺結核について

はじめに

近年、結核は減少の一途をたどり、全国の死因順位でも昭和61年は17位となり、ほとんど忘れられた病気の感じである。一方では、集団発生¹⁾の報告²⁾も跡をたたない現状である。大学においても、毎年行われる定期健康診断では何人かが発見され、治療が必要となっている。昭和59年に行われた国立大学での調査³⁾受検総数の0.06%、130名の学生が治療及び観察が必要であったと報告されている。

岐阜大学では、2.3年毎に肺結核や結核性胸膜炎が発見されている(表1)。昭和63年度も定期健康診断の結果、肺結核で治療が必要となった学生が1名発見されたのでその事例を報告する。

事例1 R・U (男) 18才 下宿生

定期健康診断の胸部X線間接撮影の結果、要精密検査が1名とあると連絡があった。本人に連絡、来所させて、先日健康診断(胸部レントゲン間接撮影)の結果、肺結核らしいということがわかったことを説明した。本学では、要精検者の問診・診察・間接フィルムの再読影などを本センターの保健管理医が行なうことにしているのもう一度、来所し診察を受けるようにすすめた。診察の結果、打診上特記すべきものなし、既往症なし、自覚症状なしであった。レントゲン間接フィルムを見せながら、肺結核について、また、早く精密検査を受ける必要があることなど指導した。翌日、早く検査を受けたいと来所したので、受診依頼書を本人に持たせて、大学の近くの学校医のいる病院へ受診させた。受診後まもなくして、病院の医師から肺結核らしいので治療が必要であるとの連絡が来た。その後、本人がフィルムを持って帰って来た。再度、肺結核について、そして、家族と相談して来るように指導した。次の日、母親がとんで来た。そこで、医師と協力して肺結核について、しっかり治療を受ければ早く治癒することなど強調して指導した。午後、本人が来所したので再び療養治療が必要であること、肺結核についても指導した。が、なかなか療養治療することの必要性を理解しないので、本人に検温をすすめたところ、37.2℃あった。自覚しないだけで微熱は続いていたものらしく、高校3年の秋頃より、けだるい感じがあったが、クラブ活動をしなくなったので、運動不足のせい、食事をしっかり食べていなかったのもそのせいではないかと思っていたということであった。やっと、療養治療する必要性を納得した。しかし、大学を休んで療養治療することにこだわるので、何処の病院で治療を受けるかについて、長時間話合った結果、大学の近くの昨日検査を受けた病院で療養治療を受けることに決まり、病院へ母親と共に受診し、入院、治療となった。

その後、経過良好で排菌もしていないことが判明し、3ヶ月後の夏休み明けには、服薬治療を受けながら通学できるようになった。

表1 定期健康診断受検状況と肺結核の発見方法

区分 年度	対 象 学生数	胸 部 X 線 間 接 撮 影		肺 結 核 の 発 見 方 法					現 在 指 導 中	備 考
		受検者数	率	定 期 健 診		医 療 機 関		入 学 前		
				数	率	数	率			
46	3,738	3,276	87.6%	4	0.12%	4	0.12%	1	6	
47	3,794	3,431	90.4%	3	0.09%				6	
48	3,906	3,497	89.5%			1	0.03%		5	
49	4,032	3,657	90.7%	2	0.05%				4	
50	4,157	3,833	92.2%	2	0.05%	1	0.03%		2	
51	4,280	3,780	88.3%	1	0.03%	2	0.05%		3	
52	4,270	3,932	92.1%						3	
53	4,210	3,941	93.6%							
54	4,171	3,898	93.5%	2	0.05%			1	1	
55	4,218	3,915	92.8%	4	0.10%				2	
56	4,102	3,754	91.5%						2	
57	4,129	3,829	92.7%						2	
58	4,218	3,729	88.4%	4	0.11%				4	
59	4,232	3,714	87.8%	7	0.19%			1	8	
60	4,420	3,593	81.3%						8	
61	4,295	3,258	75.9%			1	0.03%		4	
62	4,519	2,785	61.6%						2	
63	4,644	2,958	63.7%	1	0.07%	1			2	
計	75,335	64,780	86.0%	30	0.05%	10	0.02%	3		

2) 自然気胸について

はじめに

最近、胸が痛いと訴えて保健管理センターへ来所する学生の中で、自然気胸によるものが目につくようになった。好発年齢といわれている年齢層の集団であるので当然かとも思われる。しかし、自然気胸の確固たる予防法、治療法は完全に確立されていないのが現状⁴⁾で、治療上最も大切なことは安静であるといわれている。青年期では、結核に次ぐ疾患であり、一度罹患すると再発を繰り返し、入退院を繰り返して、本人にとっては結核より損失が大きいこともあるので管理が必要であるといわれている⁵⁾。岐阜大学でも、時々、胸痛を訴えて来所した学生が、気胸と診断されたり、定期健康診断の胸部X線間接撮影で、気胸が発見されることがある(表2)。昭和62年度は定期健康診断で1名、昭和63年度は胸痛を訴えて来所した学生の3名、平成元年度は、定期健康診断で2名(あまり自覚症状が持続しなかったらしい)、胸痛を訴えて来所した学生の2名(うち1名は、事例2の学生)が受診の結果、特発性気胸と診断(表2)されて入院治療となっている。そのうちの1事例を報告する。

事例2 K・N (男) 18才 自宅生

6月のある日、午前11頃、なんとなく胸が痛むとあって来所した。4月にも特発性気胸で入院治療した学生であったので、気胸の再発を考えて対処することにした。本人に保健指導しながらベット休養させて、家族と4月初発時の主治医に連絡したが、いずれも不在でなかなか連絡が取れなかった。やっと、午後1時頃、連絡が取れた。とりあえず、大学近くの病院へ受診依頼して、本人を連れて行き、受診検査の結果、特発性気胸であった。その後、両親が来るまでしばらく待って、入院治療ということになったが、この学生も大学を休むことにこだわり、どこで治療を受けるかなど主治医と協力して指導し話し合った結果、大学近くがよいのではとうことで受診した病院に入院(初発時の主治医の了解を得て)することになった。早い時期に安静にしたことが効を奏したのか、3週間程で退院した。しかし、10月に3度目の発病(左肺)となって、手術して一応治癒した。

さらに、平成元年の6月のある日、胸痛を訴えて受診した結果、右肺の気胸と診断されて入院治療を受けた。

本人が再発をとて不安がるので、小さな気胸にも注意が必要だが、神経質になり過ぎないようにと保健指導している。

肺結核と自然気胸について、事例を中心に報告したが、数少ない疾患ではあるが結核は伝染病であるということを念頭においての対処、集団発生の防止が必要であり、かつ本人にとっては、長い期間治療が必要であるので十分な保健指導が望まれる。気胸は、安静治療が必要であるため、どうしても大学を休む必要があり、早く発見して欠席日数を少なくしてやることを念頭においての対処が必要である。

いずれも、保健指導と適切な処置が大切であるが、健康第一という教育が少なく、学業第一と考える学生・家族が多く保健指導の難しさを痛感している。大学入学以前での充分なる健康教育を切望する次第である。

この原稿は、昭和63年度東海学校保健学会総会において発表したものに訂正、加筆したものである。

表2 自然気胸罹患者一覧表

昭和62年4月1日～

発病年月日	学 科	学年	氏 名	年 齢	経 過 等
S.62. 5. 8	獣 医	3	K・I	20才	定期健診で発見（左肺）H総合病院入院
" 5.21	医	1	N・O	18	自宅で胸痛（右肺）G市民病院入院、手術
S.63. 4.19	応 化	1	K・N	18	自宅で胸痛（左肺）N鉄道病院入院
" 6.10	"	"	"	"	大学で胸部重圧感（左肺）H総合病院入院
" 10.10	"	"	"	"	自宅で胸痛（左肺）N鉄道病院入院 手術
" 5.31	電 気	3	E・Y	20	学生寮で胸痛（左肺）H総合病院入院
" 9.13	農 工	2	K・S	19	自宅で胸痛（左肺）県立O病院入院
" 9.29	電 気	M1	O・T	23	大学で胸痛（左肺）G大医学部附属病院入院
" 11.18	応 化	1	T・H	18	自宅で胸痛（左肺）入院 手術
H. 1. 4.22	利 用	1	T・S	19	学生寮で胸痛（左肺）H総合病院入院 手術
" 5.17	生 産	1	K・T	18	定期健診の間接撮影で発見（左肺）T病院入院
" 5.22	応 化	2	K・A	22	大学の帰途胸痛（左肺）H総合病院入院 手術
" 5.24	システム	2	H・O	19	定期健診の間接撮影で発見（左肺）N第二S病院入院
" 7. 7	応 化	2	K・N	19	大学で胸痛（右肺）H総合病院入院
" 8. 6	生 産	2	N・U	19	自宅で胸痛（縦隔気腫）6日間入院

文 献

- 1) 河合臈：結核病学会（学会記）．日本医事新報（3362）1. 10, 1988
- 2) 中尾けさじ：最近の話題（肺結核と蛋白尿の事例をめぐって）．学校保健研究 1, 1988
- 3) 戸田安士：定期健康診断（身体領域）の検診の調査から〔胸部X線検査および尿検査（たん白、潜血）の結果から〕．第25回全国大学保健管理研究集会報告書（Ⅱ）21. 10, 1987
- 4) 伊坪喜八郎・半澤隆：自然気胸．本医事新報（3357）27. 8, 1988
- 5) 重信卓三：呼吸器疾患．第19回全国大学保健管理研究集会報告書 1981

6. 留年学生について

岐阜大学保健管理センター

中尾 けさじ

岐阜大学では、学生数の増加等もあって、留年学生が年々増加して来ているように思われたので、昭和56年度から60年度までの教育学部・工学部・農学部入学学生を対象に検討してみた（表1、表2）。表1に示されているように4年間で卒業出来なかった学生は、59年度卒業生（56年度入学）では15.2%であったが、翌年、60年度（57年度入学）からは、19.4%とあがり、61年度（58年度入学）は21.5%、62年度（59年度入学）は21.1%、63年度（60年度入学）は19.9%で、20%前後と高くなっている。

留年の理由は、多くは単位不足によるものようであるが、他大学受験を繰り返す者、アルバイトに一生懸命でつい登校しにくくしている者、なんとなく勉学意欲が出ないため登校できない者などさまざまであるが、大学側では、学生個人個人の理由を把握する事は非常に困難である。

そんな中から、なんとなく勉学意欲が出なく登校できなでいる学生の事例について報告する。

事例1 K. S 59年度入学（男） 26才 自宅通学

本人の助言教官から電話があり、専門へ移行出来ないのので学生を呼び出したところ、本人が来ないで母親が来ての話では、いろいろありそうなので保健管理センターで対処して欲しいと依頼があった。そこで、母親と面接したところ、「登校をしぶっているの、毎日学校へ行けと行って家を追い出していました。テストになってもテストの時間割の、どれを受けるのかがわからない有様でした。10月になっても3日位登校していた。今日は、これこれの講義に出るのだといいながら登校前まで寝ているのでどうしようもない。落ち着きはないし、本屋へ行くと言うがどこへ行くのか分からない。夜中に起きて、外出したり、夜中中起きていたりする。高校3年生の秋頃、おかしいと思って、精神科へ受診させたが別におかしくないと言われた。いつも秋頃、調子が悪くなる。」と言うことであった。

専門医と面接し相談するようにと再来所をすすめた。5日程して母親だけが来所した。

1浪して岐阜大学教育学部へ入学（予備校も中途退学している）、本人は、医学部志望であった。再度医学部を受験したいと言っているが勉強はせず受験もしない。

今までは、家を出て行くので学校へ行き単位もきちんと取って順調に進級しているものと思っていた。また、本人は、身体症状を訴えて登校出来ない、アルバイトも出来ないと言うので内科医へも受診させた。しかし、肝臓が少し悪いと言われた程度であった。

家族でよく話し合い、父親の協力などの大切さを指導した。

その後、両親、本人と共に話し合いが行われたり、本人が来所したり、母親が来所したりし、単位取得についても種々協力し、やっと5年かかって教養過程を終了し（ただし、単位は完全には取得出来なかった、いわゆる仮進である）専門過程へ行く事が出来た。

本人は、いろいろ後悔ばかりしていて、劣等感の塊となってしまったと話していた。その後また、登校しなくなり家でゴロゴロしていたり、自室に閉じ籠もったりしていて、外出はほとんどしなくなった。最近母親が大学（学部）からの連絡で出て来るだけである。そのついでに保健管理センター立ち寄って愚痴としかいいようのないことを話して帰る。親に対して、お前たちが、俺をこんなにしてしまったと言って当たり散らし、時には暴力をふるったりすることもあるようである。

休学届を出すようにすすめても休学届も出さない。

事例2 Y. G 61年度入学 (男) 21才 自宅通学後下宿

63年の秋、前期の期末試験が終わった頃、ある事務職員から、知人(学生の親)から相談を受けたのだがと前置きして、息子が大学へ行っていないことを、最近、知ったがどうしたらよいか、と相談を受けたがどうしたらよいか、と相談を受けたが自分も相談に応じきれず困っているので、保健管理センターで対応して欲しい、という依頼があった。

まず、来所するようにすすめて欲しいこと、本人が来なければ家族でよいからと話した。その間に本人がセンターへ来たことがあるかどうか調べたところ、入学した年の健康調査で身長173.0cm、体重85.5kgであり、その他いろいろ問題がありそうなので再接触とサマーキャンプ(名大と一緒に実施)に参加するようにすすめるため、5月、6月に3回程呼び出したがいずれも来所していなかった。

母親から電話があり、これから保健管理センターへ行きますと言うことであった。当方の都合など聞かないで、思い立ったら吉日といった感じで来所した。

母親の話

9月頃、教養部の学務係から成績コピーが届いていたが、一寸見て単位が取れていないなと思ったがいろいろ多忙であまり気にもしなかった。その後、大学から電話があったが、本人が出たのでその内容はわからなかった。次の大学からの電話には、自分(母親)が出た。本人(息子)は登校していないし、前期の受講届も出していない、これでは、期末試験も受けられないので連絡するというものであった。本当に驚いた。学校へ行き順調に進級しているものと信じ、3年になったのだからと、この春(昭和63年4月)から下宿させているのに、どうしようと思って知人(保健管理センターへ相談に来た事務職員)に相談したら保健管理センターへ行くようにすすめられたので来ましたと。

本人は、学校へ行くと言って弁当まで持って家を出るが、学校ではなく、ゲームセンターへ通っていた。下宿してからは、食事代もゲーム代に当てていて痩せてしまっていて驚いた。本人に、こんなことしてどうするつもりと尋ねたところ、家主に悪いけどこのまま死ぬつもりであったと言うと。

1年の後期は、単位が取れなくて、翌年、4月の受講届けをどうして書いてよいかわからず受講届けが出せなかったので試験は受けられなかったと言うことである。

なんとか本人に合いたいので本人に働きかけて欲しいと頼み、来所時には、必ず電話連絡して欲しいと話し、専門医との面接をすすめた。

その後、本人がこれから行きますと母親から電話があり待っていたが遂に来所しなかった。どうも、保健管理センターの前まで来て中に入らないで帰ったようであった。

一人では来ることが出来ないかも知れないので、家族と一緒に連れて来るようにと指導した。その後わかったことであるが、本人は、保健管理センターへ来ても名乗もしないで、ただ、入口に立っただけのようで、健康診断などで私たちが多忙な時だったので、その学生に気付かず対応できなかったことがあったようである。

その後、母親と本人が来所した。

なかなか話がすまなかったが、それでも次のようなことを話した。希望して入学したので文句はないが、教養部の授業には身が入らない。やる気が起こらない。この1年半、親を騙しているようで辛かった。今年の夏(昭和63年9月)単位未取得がバレて気が楽になった。後期からは、心を入れ替えてやるしかないと話して帰った。

後期が始まって1週間程登校して来ていたようですが、保健管理センターへも2度来所した。その後、全く登校しなくなり、親からも何ら連絡もなく、最近、相談に来た事務職員の話では、もう、どうしようもないと親は考えているようだと言われて来た。

現在（平成元年4月～9月まで）休学届を出している。

以上の事例に見られるように、登校しなくなった理由をはっきり説明できなく、自分から解決を求めてセンターへ来談することもしない学生が増えている。それら学生は、年月を経ても余り進歩がみられないことが多い。

そのうちに在籍期間もなくなってしまうことが多い。

教養部で表2のように留年する学生が多い。

留年を重ねると卒業することも困難になるという報告¹⁾もある。

岐阜大学では、入学時に全員個人面接²⁾実施し、気軽に保健管理センターへ来所するように働きかけているが、留年しそうになったり、留年したりしてしまうと保健管理センターへも来所しなくなってしまう。人間関係が大量留年を防ぐようであると報告³⁾されているように大学全体の問題として真剣に検討する必要性を痛感する。

ある大学では、学内に留年学生問題研究会⁴⁾を設けて全学的に対処している大学もある。

日常業務は、繁雑になる一方で、かつ学生数は増加するのに反して、保健管理センター職員は少なくなる傾向にある現実の中で、これらの学生たちにどう対処したらよいか苦慮している。

この原稿は、平成元年度全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会研究集会第三分科会で話題提供したものを訂正加筆したものである。

また、御指導いただいた岐阜大学保健管理センターの田中實教授に感謝いたします。

表1 4年間で卒業出来なかった学生（率）

岐阜大学

年度	教育学部	工学部	農学部	合計	備考
59	6.5%	24.2%	13.8%	15.2%	11.0%
60	10.1	26.9	20.9	19.4	
61	10.8	34.5	16.7	21.5	
62	11.0	31.0	7.2	21.1	
63	13.3	25.6	7.2	19.9	16.7%

注：1) $\frac{\text{卒業者数}}{\text{入学者数}}$
率とは、

2) 備考欄の率は、 $\frac{\text{留年者数}}{\text{4年在籍者数}}$

表2 教養部留年学生率 (%)

岐阜大学

年度	教育学部	医学部	工学部	農学部	合計	備考
54	4.3%	3.7%	14.4%	9.0%	8.9%	共通一次開始
55	4.4	5.7	12.0	10.4	8.7	
56	4.2	2.3	17.6	13.5	10.8	
57	5.1	14.2	13.2	12.7	10.0	
58	5.6	7.9	16.0	19.2	12.7	
59	7.1	3.3	18.3	15.7	14.4	
60	4.5	7.0	20.9	7.8	11.7	
61	5.3	2.2	15.1	10.0	9.9	
62	4.7	3.4	13.2	9.2	9.0	
63	5.7	8.0	14.8	9.0	10.4	

注：教養部留年とは、2年次の10月に各学部の専門過程へ移行出来なかった学生である。

文 献

- 1) 田中實：岐阜大学における過去8年間の休学、退学及び留年の実態とその精神衛生的考察。岐阜大学保健管理センター年報第2号 3, 1977
- 2) 中尾けさじ, 田中實：岐阜大学における精神衛生活動について（健康調査とインタビュー面接の検討）。学校保健研究 第27巻 2, 1985
- 3) 中尾けさじ, 田中實：岐阜大学における精神衛生活動について（健康調査とインタビュー面接の検討）。学校保健研究 第27巻 6, 1985
- 4) 柳川光彦：留年学生の実態と対応。全国大学保健管理研究集会報告書（Ⅱ） 10, 1987
- 5) 中島潤子：留年生の実態とその対策。大学と学生、文部省高等教育学生課編 1988（256）

IV 保健管理センター規則等

1) 岐阜大学保健管理委員会規則

(趣旨)

第1条 岐阜大学(岐阜大学工業短期大学部)(以下「短期大学部」という。)を含む。(以下「本学」という。)における学生及び職員の保健管理に関する基本的な事項を審議するため、本学に岐阜大学保健管理委員会(以下「委員会」という。)を置き、委員会に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 学長
- 二 各学部長、教養部長及び短期大学部部長
- 三 医学部附属病院長
- 四 保健管理センター所長
- 五 事務局長
- 六 学生部長
- 七 その他学長が必要と認める者

2 前項第7号に規定する委員は、学長が委嘱し、その任期は1年とし、再任を妨げない。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 保健管理の基本方針に関する事項
- 二 環境衛生の維持改善に関する事項
- 三 保健管理センターの組織及び運営に関する重要事項
- 四 保健管理センターの所長及び教官の人事に関する事項
- 五 その他保健管理に関する重要事項

2 前項第4号に掲げる事項について審議する場合には、前条第1項第5号及び第7号に規定する委員を除くものとする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。
(委員以外の者の出席)

第5条 委員会が必要と認めるときは、委員以外のも者を出席させることができる。
(会議)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ会議を開くことができない。
(専門委員会)

第7条 委員会は、特定の事項を調査審議するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会の委員は、委員長が委嘱する。

(幹事)

第8条 委員会に幹事を置き、庶務部長及び学生次長をもって充てる。

2 幹事は、委員会の事務を処理する。

附 則

この規則は、昭和49年7月16日から施行する。

附 則

この規則は、平成元年6月22日から施行し、この規則による改正後の規則の規定は平成元年5月29日から適用する。

2) 岐阜大学保健管理センター規則

(趣 旨)

第1条 岐阜大学保健管理センター(以下「保健管理センター」という。)は、岐阜大学(岐阜大学工業短期大学部(以下「短期大学部」という。))を含む。以下「本学」という。)における学生及び職員の心身の健康の保持増進を図るものとし、保健管理センターの組織及び運営に関し必要な事項は、この規則の定めるところによる。

(業 務)

第2条 保健管理センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 学内の保健計画の立案について指導援助すること。
- 二 定期及び臨時の健康診断の業務を行うこと。
- 三 健康相談に応じること。
- 四 救急処置を行うこと。
- 五 健康診断の事後措置等健康の保持増進について必要な指導を行うこと。
- 六 学内の環境衛生及び伝染病予防について指導援助すること。
- 七 保健管理の充実向上のための調査・研究を行うこと。
- 八 その他の健康の保持増進について必要な専門的業務を行うこと。

(組 織)

第3条 保健管理センターに次の職員を置く。

- 一 所長
- 二 保健管理医
- 三 カウンセラー
- 四 技術職員
- 五 事務職員

(分 室)

第4条 保健管理センターには、必要に応じ分室を置くことができる。

2 分室に関し必要な事項は、別に定める。

(所長及び保健管理医等)

第5条 所長は、本学の教授をもって充て、保健管理センターの業務を掌理する。

2 保健管理医及びカウンセラーは、本学の教官をもって充て、保健管理に関する専門的業務を行う。

3 全2項に規定する所長及び教官の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(委員会)

第6条 保健管理センターに保健管理センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、所長の諮問に応じ、保健管理センターの運営に関する具体的な方策その他必要な事項を審議する。

(委員会の組織)

第7条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 所長
- 二 学生部長
- 三 保健管理医
- 四 カウンセラー
- 五 学生相談室員
- 六 学校医
- 七 各学部、教養部及び短期大学部から選出された教官 各1人
- 八 庶務部長
- 九 学生部次長
- 十 その他委員会が必要と認める者

2 前項第7号及び第10号に規定する委員は、学長が委嘱し、その任期は、1年とし、再任を妨げない。

(会 議)

第8条 所長は、委員会を招集し、その議長となる。

(事 務)

第9条 保健管理センターに関する事務は、当分の間、学生部厚生課において処理する。

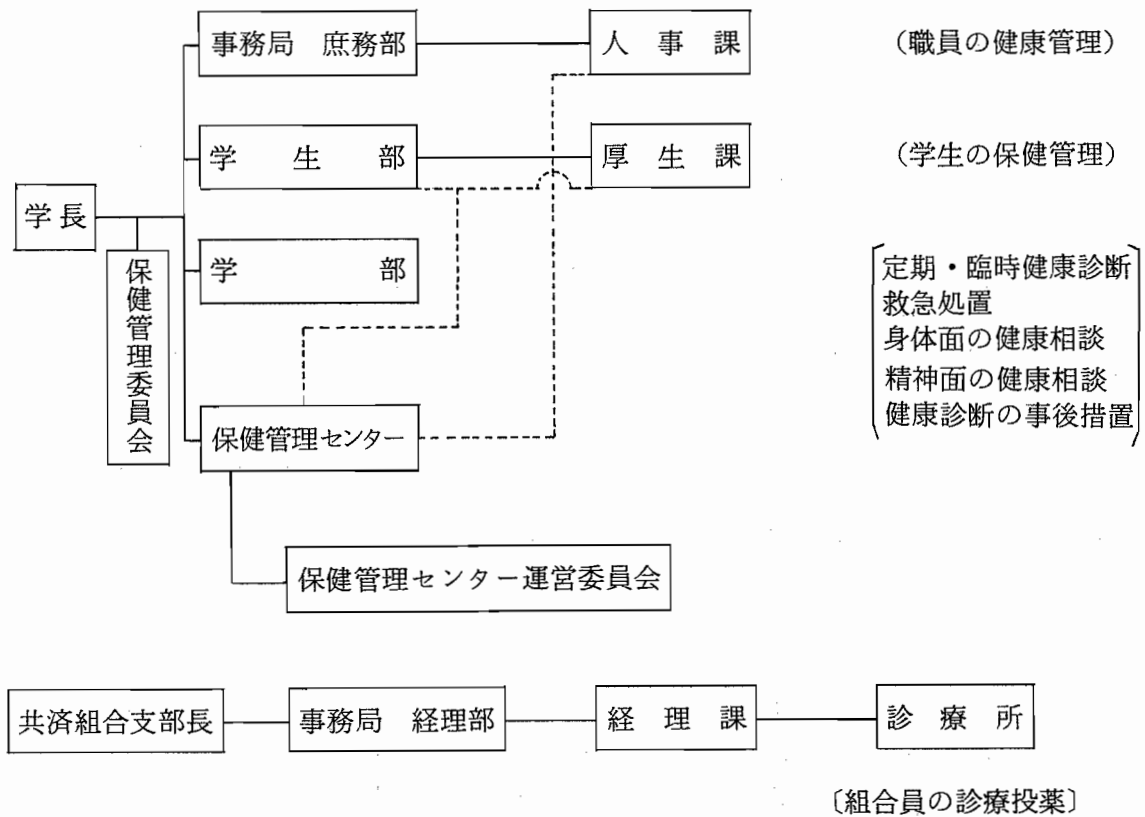
附 則

- 1 この規則は、昭和49年7月16日から施行する。
- 2 第2条の規定にかかわらず、当分の間、同条第2号に規定する業務のうち職員に係る部分については庶務部人事課、学生に係る部分については学生部厚生課において、それぞれ処理するものとする。

附 則

この規定は、昭和55年12月18日から施行し、昭和55年4月1日から適用する。

3) 保健管理機構略図



4) 保健管理医・学校医及び学生相談室員の担当日時

柳戸地区 岐阜市柳戸1番1

<0582> 30-1111

内線 2338

曜日	担当者	専門科目	担当時間
月	㊦ 田中教授	神経精神科	9:00 ~ 17:00
	㊦ 白木助手	内科	9:00 ~ 12:00
	㊦ 村瀬助手	内科	13:00 ~ 17:00
火	㊦ 田中教授	神経精神科	9:00 ~ 17:00
	㊦ 白木助手	内科	9:00 ~ 12:00
	㊦ 村瀬助手	内科	13:00 ~ 17:00
水	㊦ 田中教授	神経精神科	9:00 ~ 17:00 17:00 ~ 19:00 (第2・第4水曜日)
	㊦ 村瀬助手	内科	9:00 ~ 17:00
	㊦ 白木助手	内科	13:00 ~ 17:00
	㊦ 返田教授	心理学	11:00 ~ 13:00
	㊦ 奥田教授	保健体育	13:00 ~ 15:00
木	㊦ 田中教授	神経精神科	9:00 ~ 17:00
	㊦ 白木助手	内科	9:00 ~ 12:00
	㊦ 平野医師	内科	13:00 ~ 17:00
	㊦ 橘 助教授	心理学	13:00 ~ 15:00
	㊦ 古田(善)助教授	保健体育	13:00 ~ 15:00
金	㊦ 田中教授	神経精神科	9:00 ~ 17:00
	㊦ 中村助手	内科	9:00 ~ 12:00
	㊦ 白木助手	内科	13:00 ~ 17:00
	㊦ 林 医員	内科	13:00 ~ 16:00
	㊦ 馬路助教授	食物学	13:00 ~ 15:00
土	㊦ 田中教授	神経精神科	9:00 ~ 12:00
	㊦ 村瀬助手	内科	9:00 ~ 12:00

司地区 岐阜市司町40

<0582> 65-1241

曜日	担当者	専門科目	担当時間
月	㊦ 鈴木講師	耳鼻咽喉科	13:00 ~ 14:00
火	㊦ 船橋助教授	眼科	13:00 ~ 14:00
水	㊦ 柴崎助手	内科	13:00 ~ 17:00
木	㊦ 古田講師	外科	13:00 ~ 14:00
	㊦ 和田助手	整形外科	13:00 ~ 14:00
金	㊦ 若林教授	神経精神科	10:00 ~ 12:00
	㊦ 今枝講師	放射線科	13:00 ~ 14:00

・ 司地区での診療・相談を希望する者は、必ず事前に保健管理センター、又は医学部学務課厚生係に申し出て係員の指示に従ってください。

※ 保健管理医は㊦・学校医は㊦・学生相談室員は㊦で示す。

5) 関係職員 (昭和63年度)

(昭和63. 8. 1 現在)

○保健管理委員会委員

学	長	早	野	三	郎
教 育 学 部	長	高	野	卓	哉
医 学 部	長	吉	川		博
工 学 部	長	河	村	三	郎
農 学 部	長	金	城	俊	夫
教 養 部	長	深	井	龍	雄
工業短期大学部	主事	井	上		肇
医学部附属病院	長	山	本	道	雄
保健管理センター	所長	武	藤	泰	敏
事務局	長	大	谷		巖
学 生 部	長	時	田		喬

○保健管理センター運営委員会委員

保健管理センター	所長	武	藤	泰	敏
学 生 部	長	時	田		喬
保 健 管 理 医		田	中		實
	〃	村	瀬		寛
	〃	白	木		尚
教 育 学 部	教 授	太	田	祐	周
教 育 学 部	助 教 授	橘		良	治
	〃	古	田	善	伯
	〃	馬	路	泰	蔵
医 学 部	教 授	玉	舎	輝	彦
	〃	若	林	慎	一 郎
工 学 部	教 授	田	中	榮	一
農 学 部	助 教 授	源		宣	之
教 養 部	教 授	菅	原	光	穂

教 養 部 教 授
 " "
 工業短期大学部助教授
 医学部助教授
 " 助 手
 医学部附属病院講師
 " "
 " "
 " 助 手
 " "
 " 医 員
 庶 務 部 長
 学 生 部 次 長
 開 業 医

返 田 健
 奥 田 二
 井 藤 美
 舩 橋 員
 柴 崎 享
 古 田 彦
 鈴 木 雄
 今 枝 義
 和 田 二
 中 村 之
 林 慎
 原 田 洋
 伊 藤 夫
 平 野 弘
 英 佳 正
 智 智 孟
 栄 栄 俊
 雅 高

○保健管理センター

所 長 (併) 医 学 部 教 授
 保 健 管 理 医 教 授
 " 助 手
 " "
 保 健 婦 婦
 看 護 婦
 " "
 " "
 学 生 相 談 室 員 教 育 学 部 助 教 授
 " "
 " "
 " 医 学 部 教 授
 " 教 養 部 教 授

武 藤 泰 敏
 田 中 瀬 實
 村 瀬 寛
 白 木 尚
 中 尾 け さ じ
 林 垣 可 代 子
 丹 羽 美 穂 子
 山 中 栄 子
 栗 本 良 子
 橋 田 良 治
 古 田 善 伯
 馬 路 泰 蔵
 若 林 慎 一 郎
 返 田 健

学生相談室員	教養部教授	奥	田	英	二
"	医学部助手	柴	崎		享
"	医学部附属病院助手	中	村	俊	之
"	" 医員	林			慎
医師(学校医)	医学部助教授	船	橋	正	員
"	医学部助手	柴	崎		享
"	医学部附属病院講師	古	田	智	彦
"	"	鈴	木	智	雄
"	"	今	枝	孟	義
"	" 助手	和	田	栄	二
"	" "	中	村	俊	之
"	" 医員	林			慎
"	開業医	平	野	高	弘

○司地区(再掲載)

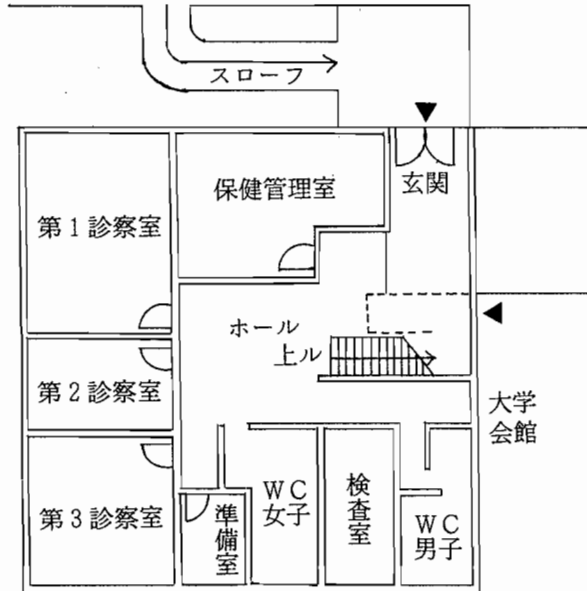
医師(学校医)	医学部助教授	船	橋	正	員
"	医学部助手	柴	崎		享
"	医学部附属病院講師	古	田	智	彦
"	"	鈴	木	智	雄
"	"	今	枝	孟	義
"	医学部附属病院助手	和	田	栄	二

保健管理センターに関する事務担当課、学生部厚生課

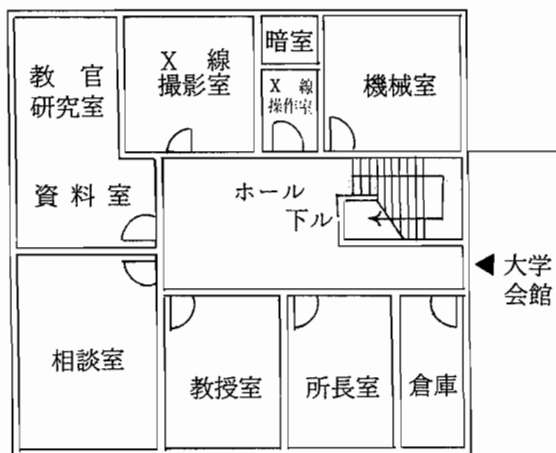
厚生課長	文部事務官	安	藤	直	正
保健係長	"	林		重	義

6) 保健管理センター平面図

1 階 (260 m²)



2 階 (265.1 m²)



7) 主要設備備品

品名	規格	数量
グルコースアナライザー	米国 Y S I 社製23A型	1
顕微鏡	オリンパス EHS 423	1
〃	オリンパス BHC 111	1
写真機	ニコン F 2	1
スライド映写機	フジックス SPT 5000	1
〃	エルモ HP 2450 DX	1
複写機	リコー FT 4510 S	1
映写機	エルモ A-33	1
〃	エルモ ST-800 8 $\frac{1}{4}$ "	1
〃	キャビン4A・アタッシュ	1
〃	SLネオビジョン102 S型	1
撮影機	エルモ 600S 8 $\frac{1}{4}$ "	1
X線撮影機	東芝 KXO-15型	1
心電計	2要素直記式 RS-200S	1
〃	3要素直記式 FD-21P型	1
〃	3要素自動 FD-36	1
〃	TR-1 英国レイノルズメディカル社製	2
遠心機	久保田卓上用 KC-25A	1
〃	ヘマトクリット用 KH-120M	1
マイクロ波治療機	ミナト医科学(株)製 MT-300 N型	1
脳波計	三栄側器 IA12-14 E型	1
フリッカー値測定器	八神理科 FV-20 自動式	1
脳波分析装置	三栄側器 7P11型	1
肝機能ハイスタット	日立 700型	1
自動血球測定器	東亜医用電子(株)製 CC-130 システム	1
中性脂肪測定器	京都第一科学 TMG-2020	1
〃	ヤガミ CH-401 FT	1
間接シャーカステン	オリオン製 ORS-4013型	1

品名	規格	数量
眼底写真撮影装置	キャノン CR2-45NM	1
ファイバースコープ	オリンパス OES	1
高輝度光源装置	オリンパス CLV-F10	1
電子走査超音波診断装置	アロカ製 SSD-210	1
英文タイプライター	トライアंक製 ガブリエル5000	1
パーソナルコンピューター	NECPC-9801	1
テレビ	ソニーKV 1300	1
〃	ソニーKV 21×BRI	1
テープレコーダー	AIWA キャリングコンボ CV-5	1
ビデオコーダー	ソニーSL 7100	1
〃	ナショナル AG 2700	1
データプレート	ワットマン 440型	1
照度計	LX-300	1
上皿天秤	ヤガミ US-120	1
アイソパワーエルゴ メーターシステム	竹井機器製	1
血圧計	アコマ標準水銀	5
〃	ヤガミ スタンド式 外	6
消毒噴霧器	バーゲスエレクトリック ミスター	2
シャーカステン	オリオン卓上用	3
寝台	(ストレッチャ) マーキスMD 554外	4
担架	NK-1 スチールパイプ 外	3
滅菌器	オートクレーブトミー 220 A	1
聴診器	リットマン 2125 L型	4
うがい器	SW-5S+WSP型	1
電子握力計	ヤガミ ED-100 N	4
音叉		4
車椅子	KAMO KM-8	1
処置台	NK-30	1

品 名	規 格	数 量
尿 自 動 分 析 器	エームスクリニテック SG	3
呼 吸 機 能 測 定 器	AS-500 ミナト医科学	1
蛋 白 計	アタゴ製 No. 330	1
検 耳 鏡	EN-29100	1
人 口 蘇 生 器	救急用 NKP-1型	1
肥 満 度 計 算 器	ヤガミ 8336-220	1
皮 下 脂 肪 計	ヤガミ NK-60	1
人口呼吸訓練用人形	アイカニューレサッアン	1
実 験 台	ヤマト科学FFS-120M(R)外	5
薬 品 戸 棚		3
保 管 庫	ヤマト科学SLK-15外	11
冷 蔵 庫	ナショナル(G) NR-174TR	5
書 庫		3
物 品 棚		2
流 し 台		3
肺 活 量 計		2
背 筋 力 計	スパート スタンダード型	1
体 重 計	MSH-150外	2
身 長 計	ヤガミ デジタル式 外	3
視 力 検 査 器	ヤガミ 8350-220 ES	3
座 高 計	ヤガミ デジタル式	3
医 療 バ ッ ク	G型	5
ス ク リ ー ン	三脚スタンド式	1
カ ロ リ ナ ー	スズケン 栄養指導用	1

(参 考)

昭和63年度 入学生の学生教育研究災害傷害保健加入状況

63.11.17 現在

学 部	学 生 数	加 入 者 数	加 入 率
教 育 学 部	341人	322人	94.4%
医 学 部	84	74	88.1
工 学 部	460	415	90.2
農 学 部	250	230	92.0
小 計	1,135	1,041	91.7
医 学 研 究 科	28	12	42.9
工 学 研 究 科	96	83	86.5
農 学 研 究 科	60	28	46.7
教 育 専 攻 科	2	2	100.0
臨 時 教 員 養 成 課 程	16	15	93.8
農 業 別 科	5	3	60.0
小 計	207	143	69.1
合 計	1,342	1,184	88.2

昭和63年度 入学生の学生健康保険互助会加入状況

63.11.17 現在

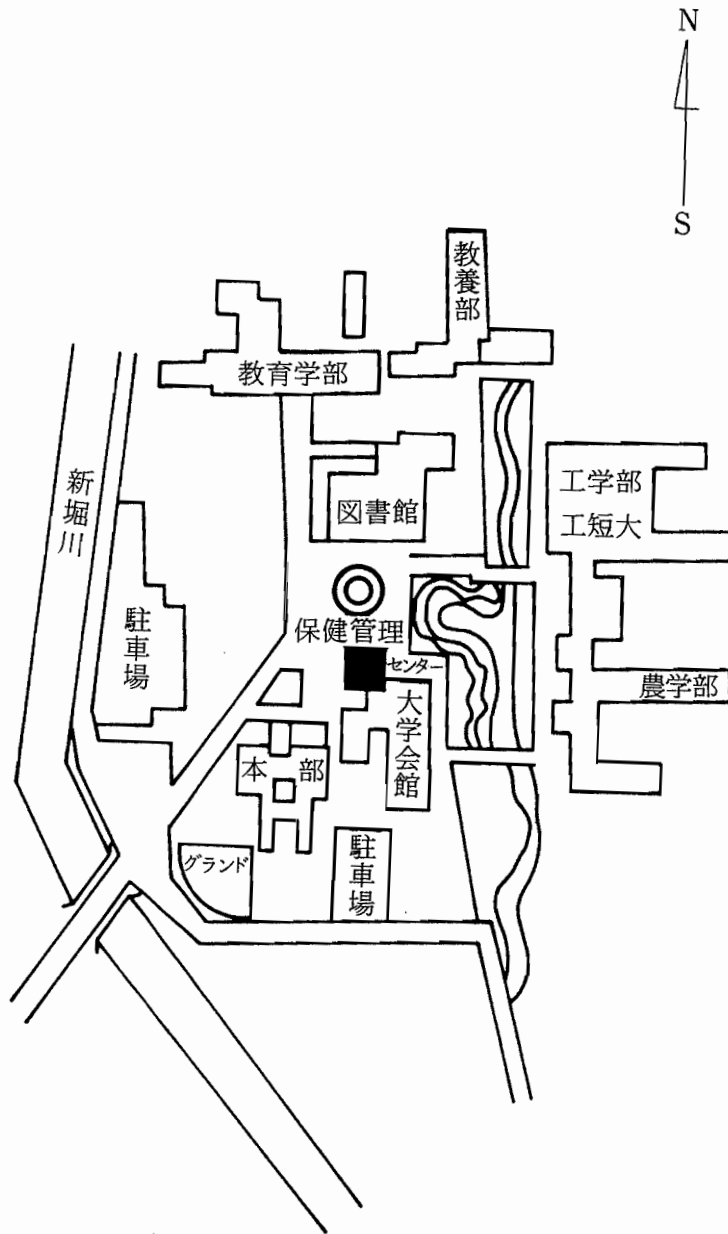
学 部	学 生 数	加 入 者 数	加 入 率
教 育 学 部	341人	319人	93.5%
医 学 部	84	70	85.7
工 学 部	460	408	88.7
農 学 部	250	228	91.2
小 計	1,135	1,027	90.5
医 学 研 究 科	28	13	46.4
工 学 研 究 科	96	83	86.5
農 学 研 究 科	60	27	45.0
教 育 専 攻 科	2	2	100.0
臨 時 教 員 養 成 課 程	16	15	93.8
農 業 別 科	5	3	93.8
小 計	207	143	69.1
合 計	1,342	1,170	87.2

学生教育研究災害傷害保険適用一覽

事故発生年 月	学 部 科	学年	傷 病 名	事故態様	治 療 期日(日)	保険金額
4. 2	教育学部 物理化学科	3	右手4指中節骨近位部 剥離骨折	課外活動中 (学校施設内)	29	30,000
4. 16	農学研究科 農芸化学専攻	1	右第1指切創	正 課 中	6	6,000
4. 22	農 学 部 獸 医 学 科	1	左足関節外側々副靭帯 損傷	課外活動中 (学校施設内)	65 入院4日	96,000
4. 24	医 学 部 医 学 科	5	左足首骨折	〃	17	30,000
4. 27	教育学部 国語国文学科	3	右足根部捻挫	〃	45	50,000
〃	教育学部 体 育 学 科	3	右肩部捻挫 左肩部捻挫	〃	31	50,000
4. 29	農業研究科 獸医学専攻	2	右前腕犬咬創	正 課 中	5	6,000
5. 13	工 学 部 応 用 化 学 科	1	第4指開放性骨折	〃	5	6,000
5. 25	教育学部 体 育 学 科	3	右足首捻挫	課外活動中 (学校施設内)	44	50,000
6. 1	教育学部 社 会 学 科	1	左足関節外側々副靭帯断 裂	学校行事中	41 入院12日	98,000
〃	教育学部 数 学 科	3	右第5中足骨骨折	〃	16	30,000
〃	農 学 部 農 業 工 学 科	2	下顎部挫創	〃	5	6,000
6. 3	農 学 部 獸 医 学 科	3	右足首関節外側々副靭帯 損傷	課外活動中 (学校施設内)	52	50,000
6. 5	農 学 部 生 物 資 源 生 産 学 科	1	右手第4指切傷 前歯(左)を折る	学校行事中	15	30,000
6. 12	工 学 部 機 械 工 学 科	2	右足関節靭帯損傷	課外活動中 (学校施設内)	10 入院37日	198,000
6. 17	工 学 部 応 用 化 学 科	2	左接骨龜裂骨折	正 課 中	23	30,000
6. 18	工 学 部 合 成 化 学 科	3	右下肢両骨骨折	課外活動中 (学校施設内)	入院 44日	226,000
6. 26	教育学部 物理化学科	2	左環指基節骨骨折	〃	14	30,000
7. 25	農学研究科 獸医学専攻	〃	咬傷	正 課 中	4	6,000
8. 17	工 学 部 機 械 工 学 科	4	右親指挫傷	〃	6	6,000
8. 25	教育学部 体 育 学 科	3	右環指マーレット指	課外活動中 (学校施設内)	95	110,000
8. 29	教育学部 教 政 学 科	〃	右肩捻挫	〃	14	30,000

事故発生 年 月	学 部 学 科	学年	傷 病 名	事故態様	治 療 期日(日)	保険金額
8. 30	医 学 部 医 学 科	2	右上腕骨骨幹部骨折	課外活動中 (学校施設外)	7 1 入院12	128,000
9. 15	教 育 学 部 教 史 学 科	〃	左足関節外側靱帯断裂	〃	4 5 入院39	236,000
10. 2	〃	〃	左後骨遠位端骨折 左尼骨茎状突起骨折	〃	3 3	50,000
10. 10	教 育 学 部 体 育 学 科	3	鼻骨骨折及び顔面打撲	〃	1 5	30,000
10. 18	農 学 部 生 物 資 源 利 用 学 科	1	頭部外傷Ⅱ型、顔面、両肘、 両膝打撲 傷	休 憩 中、 そ の 他	6 入院8	62,000
10. 28	医 学 部 医 学 科	4	右膝内側々副靱帯損傷	課外活動中 (学校施設外)	2 6	30,000
10. 29	工 学 部 機 械 工 学 科	2	右環指橈骨々折	学校行事中	3 1	50,000
11. 7	教 育 学 部 美 術 工 芸 学 科	1	口の切傷	正 課 中	1 1	15,000
〃	教 育 学 部 社 会 学 科	3	右手親指骨折	課外活動中 (学校施設外)	4 8	50,000
11. 8	教 育 学 部 国 語 国 文 学 科	2	右足小指裂傷	〃	1 4	30,000
11. 13	農 学 部 獣 医 学 科	2	左足関節内側々副靱帯損 傷	学校行事中	2 3	30,000
11. 25	工 学 部 工 業 化 学 専 攻	〃	接触性皮膚炎	正 課 中	7	6,000
12. 2	工 学 部 機 械 工 学 科	1	頸椎過屈曲損傷	〃	1 9	30,000
12. 5	教 育 学 部 教 育 学 科	1	前額挫創	〃	7	15,000
〃	教 育 学 部 体 育 学 科	〃	左足関節内側々副靱帯損 傷 左腓骨外果骨折	〃	3 9	50,000
12. 8	〃	4	右足根部捻挫	課外活動中 (学校施設外)	1 4	30,000
12. 10	医 学 部 医 学 科	〃	左手中手骨骨折 伝染性膿ヒ、急性扁桃炎	〃	3 2	50,000
〃	農 学 部 農 学 科	〃	左小指PIP関節脱臼骨折	〃	2 0	30,000
12. 28	工 学 部 機 械 工 学 科	2	左第2指傷創	〃	8	15,000
元 1. 10	農学部 生物生 産システム学科	1	左肩部捻挫	〃	3 0	50,000
元 1. 11	工 学 部 精 密 学 科	4	右第3指挫創	正 課 中	1 2	15,000
元 1. 19	教 育 学 部 体 育 学 科	3	右足根部捻挫及び腰部 捻挫	正 課 中	8 0	80,000
元 2. 23	農 学 部 家 禽 畜 産 学 科	4	右手第2指創傷	〃	5	6,000

保健管理センター位置図



保健管理センター
岐阜市柳戸1番1
TEL<0582>30-1111
内線 2811・2812

岐阜大学保健管理センター年報 第13号

平成2年3月 発行

編集
発行 岐阜大学保健管理センター

岐阜市柳戸1の1

正 誤 表

頁	誤	正
1 頁上から 9 行目	蛋白 <u>量</u>	蛋白 <u>尿</u>
1 頁上から15行目	受 <u>験</u> 者数	受 <u>検</u> 者数
19頁下から 4 行目	保 <u>険</u> 管理センター	保 <u>健</u> 管理センター
25頁上から12行目	受 <u>験</u>	受 <u>検</u>
44頁下から15行目	含まれ <u>な</u> せんが	含まれ <u>ま</u> せんが
45頁上から 3 行目	治療 <u>い</u> すが	治療 <u>で</u> すが
〃	運 <u>動</u> することは	運 <u>動</u> をすることは
45頁上から 5 行目	早くて <u>こ</u> 確實	早くて <u>確</u> 實
46頁上から 6 行目	纖 <u>維</u>	組 <u>織</u>
46頁上から 7 行目	果た <u>し</u> て	果 <u>し</u> て
〃	<u>し</u> ます	<u>い</u> ます
46頁下から13行目	分岐 <u>し</u> た	分岐 <u>し</u> て
46頁下から11行目	心臓は <u>自</u> 身	心臓 <u>自</u> 身
47頁上から 1 行目	<u>い</u> ずれも心筋への	<u>い</u> ずれ心筋への
47頁上から 5 行目	併 <u>い</u> ますが、	併 <u>い</u> ますが、
47頁上から16行目	通 <u>風</u>	痛 <u>風</u>
56頁下から19行目	1名と	1名
58頁上から 5 行目	確固 <u>て</u> る	確固 <u>た</u> る
58頁上から21行目	よいのでは <u>と</u> うことで	よいのでは <u>と</u> うことで
61頁上から 3～4 行目	<u>どうしたらよいか、と相談</u> <u>を受けたがどうしたらよいか、</u>	<u>どうしたらよいか、</u>
62頁上から11行目	<u>2) 実施し、</u>	<u>2) を実施し、</u>